

2024度 研究・事務組織 E群

群	区分	自己点検・評価対象部署	頁番号
E	研究組織	創発学術院	2
		中部高等学術研究所	5
		国際ESD・SDGsセンター	8
		国際GISセンター	11
		産業経済研究所	16
		生命健康科学研究所	20
		実験動物教育研究センター	23
	事務組織	女性活躍推進室	26
		民族資料博物館	29
		蝶類研究資料館	33
		東京サテライトオフィス	37
		理事長・総長室	40
		管財課	43
		施設課	46
		購買課	49
		情報基盤課	52
		学術企画課	55
		学長室	58
		高等教育推進課	61
		大学IR推進課	65
		大学評価事務課	69
		学事課	73
		設置改組準備課	77
		経営情報学部事務室	80
		生命健康科学部事務室	83
		人間力創成教育院事務室	86
		創造的リベラルアーツセンター事務室	89
		入試広報課	92
		入試事務課	95
		アドミッション戦略課	99

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	創発学術院
人員構成	教員 11 人、 職員・その他 3 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	組織全体の活動状況を自己点検・評価するために、2022 年度学外運営委員を務めた客員教授 6 名に対し、意見書の提出を求めた。意見書では、本組織の活動に対する評価、改善点の提案が寄せられた。指摘内容を精査し、改善案を策定する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1) 本務教員会議で客員教授意見書の内容を精査し、改善、対応策を検討した [1110a]。2) 1) に基づいて 2023 年度活動計画を立案し、運営委員会で審議した [1110b]。3) 活動実施後、運営委員会で報告し、当該活動の改善点や評価についてフィードバックを得るとともに、本務教員会議で今後の取り組みについて検討した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
新たに「不可能を研究する」をテーマとする研究活動を推進する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
「中部大学創発学術院規程」にもとづき、研究活動を推進した [1111a]。所属教員の研究分野に即して3つの専門部会を設置し、各部会内で研究の活性化に努めた [1111b]。また、各部会の活動を運営委員会で随時報告し、適切に部会が運営されているかを相互に点検、評価する体制を整えた [1110b]。各自の研究活動や研究業績は運営委員会において随時報告するとともに、当該年度の構成員の研究活動・業績、および組織として実施したアウトリーチ活動等はすべて年報にまとめて報告している。年報は印刷物として閲覧、配布するとともに、ウェブサイト上で一				

般に公開している [1111c] [1111d]。また、年度末には客員教授 8 名に対して意見書の提出を求め、年間活動や運営体制に関して組織内で点検、評価を実施した [1111e]。
 年度重点目標は、本務教員会議で協議し、全会一致で決定した。2022 年度の重点目標として掲げた「新たに『不可能を研究する』をテーマとする研究活動を推進する」については、各所属員が個々の研究活動のなかで取り組んだ。また、不可能性をテーマとして、第 35 回創発セミナー「絵から飛び出した不可能立体の世界」を開催し、講師を交えて意見交換をおこなった [1111f]。組織として実施した重点目標にかかる活動の計画および成果については、すべて運営委員会で報告し承認を受けた [1110b]。

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
「中部大学創発学院規程」および「創発学院運営委員会に関する内規」に即して、運営委員会を開催した [1111a] [1121a]。2023 年度はオンライン会議とオンサイト開催を併用して、計 6 回開催した。会議には運営委員の過半数が必ず参加し、組織の運営、活動について点検、評価をおこなった。また、審議内容は、議事録としてまとめ、その次の回の運営委員会にて確認し、承認を得た [1110b]。また、過去の議事録をオンラインのファイル共有サービス (Dropbox) に保管し、運営委員による閲覧を可能にした。活動記録 (議事次第、議事録、セミナーの動画アーカイブ) すべてを同サービスで共有することで、関係者が必要に応じて過去資料を参照し、随時、活動を点検・評価できる体制を整えた。なお、毎回の運営委員会に際しては、委員会開催および議事録作成に関する起案決裁 (院長決裁) を取り、適切な委員会の運営に努めた [1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	年報を始めとする印刷物の部数を最低限に減らし、ウェブサイトで公開・閲覧することを原則とした。印刷コストと資源の削減という目的を達成するとともに、必要に応じて即座にオンライン上でアクセスできる体制が整い、利便性も向上した。
項目 No. 1121	運営委員会をハイブリッド形式 (オンサイト、オンライン併用) で開催した。オンライン配信をおこなうことで、特に遠隔地からの会議参加が容易になり、高い出席率が得られるようになった。
項目 No. 1121	議事録を含む会議資料・記録、会議・イベントの動画アーカイブをオンライン上に保管し、関係者間で共有する体制を整えることで、効率的な情報共有が可能になった。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み (予定) および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	各年度の重点目標は本務教員会議で審議し、全構成員の合意により決定している。2023 年度重点目標についても同様の手続きで設定し、各構成員が目的意識をもって取り組んでいたが、個々の自主性に依存する部分が大きく、組織全体としての達成度の評価が困難であった。
今後の改善・向上方策	
2023 年度はより明確な重点目標を設定するとともに、組織として目標達成に向けた取り組みをおこなう。具体的には、年間活動計画の策定に際して、目標達成までのロードマップを作成し、随時、取組状況や達成度を評価・点検する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
若手教員を中心として、新しく、かつ自由な視点からの創発的融合研究を推進する。また、学部学生、大学院生、併設校生徒、一般など、対象を問わず幅広く科学教育・アウトリーチ活動を実践することで、研究を基軸とした大学ブランド力の向上に貢献することを目指す。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	創発学術院学客員教授意見書まとめ（2022 年度）	△
1110	b	創発学術院運営委員会議事録（2023 年度）	○
1111	a	中部大学創発学術院規程	○
1111	b	2023 年度中部大学創発学術院専門部会構成員一覧	○
1111	c	中部大学創発学術院年報（2022 年度）	△
1111	d	中部大学創発学術院ウェブサイト	△
1111	e	創発学術院学客員教授意見書まとめ（2023 年度）	△
1111	f	第 35 回創発セミナーポスター	○
1121	a	中部大学創発学術院運営委員会に関する内規	○
1121	b	創発学術院運営委員会開催、議事録作成に関する起案書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 規程に則り、研究活動が推進されている [1111a]。年度重点目標は、本務教員会議で協議され、各自の研究活動や研究業績は運営委員会において随時報告が行われ、当該年度の構成員の研究活動・業績、および組織として実施したアウトリーチ活動等はすべて年報にまとめて報告し、計画的に進められている [1111c][1111d][1110b]。 1121 規程、内規に即して、運営委員会が開催され [1111a][1121a]、会議には運営委員の過半数が必ず参加し、組織の運営、活動について点検、評価が持続的に行われている。審議内容は、議事録としてまとめ、その次の回の運営委員会にて確認され、承認が得られ適切に行われている[1110b]。
長所・特色
1111, 1121 年報、議事録等において印刷物を減らし、ウェブサイト利用により印刷コスト削減とオンラインアクセスによる利便性向上を実現しており評価できる。運営委員会をハイブリッド形式（オンサイト、オンライン併用）で開催しており、遠隔地からの会議参加が容易になり、高い出席率が得られている。議事録を含む会議資料・記録、会議・イベントの動画アーカイブをオンライン上に保管し、関係者間で共有する体制を整えることで、効率的な情報共有が可能としている。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所
人員構成	教員 7 人、職員・その他 5 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	中部高等学術研究所としての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行を、バランスをとって推進する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
自己点検・評価等により、事業計画に基づいた研究所運営を行うべきという認識が所員に根付いてきている。当初の計画外の活動を行う際には、事業計画修正案を所員会議あるいはメール審議にて承認を得てから実施している[1110a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	所員会議の開催が年度内 1 回だった。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
所員会議の開催回数を増やし、メール審議を含めて年度内に 3 回開催した[1120a][1120b][1120c]。日程調整等が難航する場合には、個別の打ち合わせを行う等で補完する運営を行っている。特に、研究所を本務とする専任教員からなる企画運営ワーキンググループを組織し、会合を多く開催した[1120d]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
研究活動をさらに活性化するため、国内・海外との研究交流を推進するとともに、所員の情報共有とコミュニケーションを推進する。研究計画に基づく進捗管理を適宜行い、バランスのとれた事業推進に努める。さらに、恵那市・東濃地域を中心とした共創の場の形成を目指し、地域循環共生圏やローカル SDGs、カーボンニュートラルの実現に取り組む。また、同様の研究課題に取り組んでいる協定校のオハイオ大学の Voinovich School との研究交流も進める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
中部高等学術研究所は、研究所規程において「国内外の研究者及び研究機関の有機的な連携のもとに、国際的、学術的な共同研究を行い、大学における学術研究及び高等教育の深化、発展に資するとともに、優秀な若手研究者を育成すること」を目的とする[1111a]。この目的を達成するために、事業計画と予算を策定し[1111b]、所員会議において承認を得ている[1111c][1111d][1111e]。				

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
所員会議の開催の際は、事前に日程調整を行い、オンライン等も活用して開催し、議事録案を作成し、次回所員会議内またはメール審議にて議事録の承認を行っている[1121a][1121b][1121c]。所員会議を開催しない時期の審議事項についてはメールや書面での審議を行い、研究所運営を遅滞なく進めている。特に、研究所を本務とする専任教員からなる企画運営ワーキンググループを組織し、会合を多く開催した[1121d]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	研究所運営において中心となる専任教員の情報共有とコミュニケーションを推進し、研究活動を活性化するための取り組みとして、研究所を本務とする専任教員からなる企画運営ワーキンググループを組織し、会合を多く開催した[1121d]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1110	中部高等学術研究所としての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行を、引き続きバランスをとって推進する。
今後の改善・向上方策	
研究計画・事業計画は所員会議での承認を行っており、これを今後も継続する。当初の計画外の活動を行う際には、事業計画修正案を所員会議あるいはメール審議にて承認を得てからの実施とする。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
所員会議の開催回数を増やすようつとめるとともに、日程調整等が難航する場合にはオンラインや電子メールを活用し、個別の打ち合わせを行う等で補完する等の運営を継続的に行う。また、必要に応じて適宜、2023 年度に実施した企画運営ワーキンググループ会合も実施する。共創の場や地域中核大学等の外部資金の獲得につとめる。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	2023 年度 中部高等学術研究所 研究に係る事業計画と予算の提案	○
1111	a	中部大学中部高等学術研究所規程	○
1111	b	2023 年度 中部高等学術研究所 研究に係る事業計画と予算の提案	○
1111	c	2023 年度第 1 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1111	d	2023 年度第 2 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1111	e	2023 年度第 3 回中部高等学術研究所 所員会議（メール審議） 議事録	●
1120	a	2023 年度第 1 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1120	b	2023 年度第 2 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1120	c	2023 年度第 3 回中部高等学術研究所 所員会議（メール審議） 議事録	●
1120	d	中部高等学術研究所 2023 年度企画運営ワーキンググループ会合 開催履歴	●
1121	a	2023 年度第 1 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1121	b	2023 年度第 2 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1121	c	2023 年度第 3 回中部高等学術研究所 所員会議（メール審議） 議事録	●
1121	d	中部高等学術研究所 2023 年度企画運営ワーキンググループ会合 開催履歴	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 当研究所の規程に沿って、事業計画に基づき当研究所を運営するという意識が所員に根付いている[1111a][1111b][1111c][1111d][1111e]。 1121 オンラインも活用して所員会議およびメール審議を開催し、議事録も作成されているなど、計画に沿った運営がなされている[1121a][1121b][1121c]。
長所・特色
1121 当研究所では、情報共有やコミュニケーションを推進し、研究活動を活性化するために、研究所を本務とする専任教員からなる企画運営ワーキンググループを組織し、会合を多く開催している[1121d]。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際 ESD・SDGs センター
人員構成	教員 4 人、職員・その他 3 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	学外連携では成果をあげているが、学内の SDGs 関連の活動の連携、啓発活動が不足していた。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
THE インパクトランキングへ申請、第 14 回中部大学 ESD・SDGs 研究・活動発表会の開催、中部大学 ESD 通信」(42~44 号)を発行した。さらに、客員教授らも講師とする SDGs リレートークの実施。ちゅうらぼ参加学生へのサポートなど学生サポートセンターとの連携、人間力創成教育院との情報交換を実施した。[1110a] [1110b]	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	センター員と事務職員の連絡方法の改善
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
センター教員のガルーンによるスケジュール管理の実施。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
1. SDGs ゼミナールの定期開催
2. THE インパクトランキングへの登録に向けた学内連携強化
3. 中部 ESD 拠点への参加および貢献
4. 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム活動の拡充
5. 愛知県との連携による「AICHI SDGs EXPO 2023」の企画・実施・参加

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己 評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
中部高等学術研修所事業計画[1110a]を策定し、国際 ESD・SDGs センター運営委員会により目標を確認しながら運営を行っている。[1110b] ESD 通信(42～44 号)を予定通り発行した。第 14 回 ESD・SDGs 研究・活動発表会を 11 月 30 日に開催し学部横断の情報共有による普及啓発を行った。THE インパクトランキングへ本学の SDGs 対応をまとめ申請した。SDGs リレートークを 2 回実施した。中部圏 SDGs 広域プラットフォーム活動および SDGs AICHI EXPO 2023 への出展を行った。[1111a] [1111b] [1111c]				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
上部組織である中部高等学術研究所の所員会議にて、目的と実施状況を確認している。国際ESD・SDGsセンター運営委員会では、センター所属教員に加えて、学内7学部からの選出委員が運営委員会においてセンターの活動内容の点検をおこなっている。運営委員会では活動に関する資料が提示され、適切に議事録が作成されている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	インパクトランキングでは本学の SDGs 対応、活動をまとめ東海地区私大でトップの評価を得ており、SDGs リレートークでは学部の枠を超えた参加者があった。
項目 No. 1121	定期的な運営委員会の開催とともに、構成員の間で情報交換を行った。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	専任教員の退職によりマンパワーが不足する状況で研究活動の成果を上げる方法を検討する
今後の改善・向上方策	
センターホームページを活用した情報発信を積極的に行う 学内他研究所で行っているテーマを設定した研究員による研究活動の可能性の検討 学外連携活動の活用	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	効率的な事務処理
今後の改善・向上方策	
嘱託事務員の活用についての検討 オンライン業務システムの活用	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
1. SDGs リレートークの定期開催 2. THE インパクトランキングへの登録に向けた学内連携強化 3. 中部 ESD 拠点への参加および貢献 4. 中部圏 SDGs 広域プラットフォーム活動の拡充 5. 愛知県との連携による「AICHI SDGs EXPO 2023」の企画・実施・参加 6. ホームページを利用した情報発信

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	2023 年度第 1 回国際 ESD・SDGs センター運営委員会資料	●
1110	b	2023 年度第 2 回国際 ESD・SDGs センター運営委員会資料	●
1111	a	2023 年度中部高等学術研究所事業計画	●
1111	b	2023 年度第 1 回国際 ESD・SDGs センター運営委員会議事録	●
1111	c	2023 年度第 2 回国際 ESD・SDGs センター運営委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 上部組織である中部高等学術研究所事業計画を策定し、国際 ESD・SDGs センター委員会によって確認された目標に沿って、THE インパクトランキングの申請、ESD・SDGs 研究・活動発表会等が計画的に進められている [1110a] [1110b] [1111a] [1111b] [1111c]。 1121 運営委員会において活動内容の点検が行われ、議事録作成に関する手続きが適切に行われている [1110a] [1110b] [1111b] [1111c]。
長所・特色
1111 インパクトランキングでは、東海地区私大でトップの評価を得ている。 1121 運営委員会を定期的に開催し、適切に議事録作成が行われていることは評価できる [1110a] [1110b] [1111b] [1111c]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際 GIS センター
人員構成	教員 8 人、職員・その他 4 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	研究組織としての、国際共同研究への積極的な取り組み、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成を重点的に推進する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
■ 国際 GIS センターは、2014 年度より文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定され、2020 年度に継続の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」としての活動を継続している [1110a]。3 年毎に文部科学省による評価を受けているが、2023 年度は拠点認定第 2 期の中間評価が行われ、A 評価（S、A、B、C の 4 段階評価、A：拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティにも貢献していると判断される。）を受けた [1110b][1110c]。 ■ 国際共同研究について、中部高等学術研究所・国際 GIS センターを担当部署として 2023 年にタイ王国タマサート大学と大学間交流協定を締結した [1110d]。タマサート大学側の担当部署である Sirindhorn International Institute of Technology (SIIT) では、協定を踏まえて、国際 GIS センターとの連携を基軸とした新研究センター「Center of Excellence in Digital Earth and Emerging Technologies (CoE: DEET)」の設置準備を進めている [1110e]。 ■ 研究拠点の連携を図るネットワーク化について、関係する研究機関とのネットワーク構築・強化を目的としたアウトリーチ活動として、国際シンポジウム「SDGs に貢献するデジタルアース」の開催 [1110f]、及び地理情報システム学会第 32 回学術研究発表大会において企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望 (2023)」の開催を行った [1110g]。さらに、上で示した拠点活動を基盤として、それをさらに加速させることを目指し、2023 年度に京都大学生態学研究センター・野生動物研究センター等と連携・協力体制を構築し、文部科学省「共同利用・共同研究システム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」」の申請（結果は不採択） [1110h]、ならびに 2023 年度の「共同利用・共同研究システム形成事業～特色ある共同利用・共同研究拠点支援プログラム～機能強化支援」の申請（結果は不採択）を行った [1110i]。 ■ 人材育成については、国際的な持続的発展に関わる諸問題、そして GIS や地理情報科学がそれらの諸問題にどのように貢献しているかをテーマとし、中部大学生を参加者の約半数として多国籍の学生が参加して学ぶために 2011 年からコロナ禍中を除いて継続的に開催している Asian Summer School in Bangkok を、2023 年度もタイ王国に所在する国際大学院アジア工科大学院にて、8 月末から約 2 週間の期間で行った [1110j][1110k]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110・1120	国際 GIS センターとしての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と、進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行とのバランスをとって進める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	

中部高等学術研究所所員会議、国際GISセンター運営委員会、問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点共同利用委員会等の委員会活動等を通じ、「研究に係る事業計画と予算の提案」の随時の見直しや、学外の委員を交えた委員会における研究活動や事業内容・体制の客観的な点検等を自主的にを行い、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた運営に取り組んでいる
[1110i][1120a][1120b][1120c][1120d][1120e][1120f]。

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
共同利用・共同研究拠点をはじめとするセンター研究活動をさらに活性化するため、センター外との研究交流や国際共同研究を深化するとともに、センター内教職員の情報共有とコミュニケーションを推進する。外部研究費の積極的な獲得を狙うとともに、研究計画に基づく進捗管理を適宜行い、バランスのとれた事業推進に努める。さらにGIS利用を積極的に推進するため、学内外を対象とするGIS教育研修プログラムを検討、実施する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
■ 「国際 GIS センター規程」、「国際 GIS センター運営委員会規程」、「国際 GIS センター「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会規程」により、研究活動の指針、及び継続的な業務内容の点検について規定している[1111a][1111b][1111c]。 ■ 2024 年 3 月に国際 GIS センター運営委員会を開催し、委員による議論を通じて、2023 年度の研究活動の報告・今後の方針の確認と、組織・体制の点検を行った[1111d]。2023 年 4 月に開催の中部高等学術研究所所員会議にて「研究に係る事業計画と予算の提案」を承認し、事業計画と予算に基づき、研究活動を計画的に推進している[1111e][1111f]。 ■ 国際 GIS センターが認定されている文部科学省共同利用・共同研究拠点「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」としては、2023 年 3 月末に文部科学省大学研究基盤整備課に提出の「令和 5 年度実施計画書」に基づいて研究活動を推進し[1111g]、2024 年 3 月に 2023 年度の共同研究の成果を総括する成果報告会を開催した[1111h]。2023 年度の研究成果は、2024 年度に出版物として取りまとめる予定である[1111i]。（2014 年度の拠点認定から毎年、共同研究の成果を出版物として印刷・公開している。）さらに、2024 年 6 月に「2023 年度実施状況報告書」を文部科学省大学研究基盤整備課に提出を予定している[1111j]。（2014 年度の拠点認定から毎年「実施状況報告書」を作成・提出し、拠点としての計画的な研究活動の推進及び業務内容の点検を行っている。）				

■ 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」の運営に当たっては、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会で審議し、執り行っている。2023 年 5 月に開催した共同利用委員会（持ち回り審議）により、2023 年度の共同研究推進内容の審議を行った[1111k]。また、2024 年 3 月に共同利用委員会を開催し、学外委員による外部評価を含め、2023 年度の拠点活動の点検、及び 2024 年度の方針の確認と、組織・体制の点検を行った[1111l]。 ■ 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、3 年毎に文部科学省による評価を受けているが、2023 年度は拠点認定第 2 期の中間評価が行われ、A 評価（S、A、B、C の 4 段階評価、A：拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティにも貢献していると判断される。）を受けた[1111m][1111n]。
--

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
■ 国際 GIS センター運営委員会を 2024 年 3 月に開催し、委員による議論を通じて、2023 年度の研究活動の報告・今後の方針の確認と、組織・体制の点検等を行った。国際 GIS センター事務により、議事録を適切に作成した [1121a]。また、専任教員の会合は随時開催しており、情報共有と迅速な対応につとめている。 ■ 中部高等学術研究所所員会議を 2023 年 4 月、2023 年 11 月（オンラインとメール審議）に開催し、所員による議論を通じて、2023 年度の研究活動の報告・今後の方針の確認と、組織・体制の点検等を行った。中部高等学術研究所事務により、議事録を適切に作成した[1121b][1121c][1121d]。 ■ 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」の運営に当たっては、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会で審議し、執り行っている。2023 年 5 月に開催した共同利用委員会（持ち回り審議）により、2023 年度の共同研究推進内容の審議を行った[1121e]。また、2024 年 3 月に共同利用委員会を開催し、学外委員による外部評価を含め、2023 年度の拠点活動の点検、及び 2024 年度の方針の確認と、組織・体制の点検を行った。問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点事務により、議事録を適切に作成した[1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	文部科学省共同利用・共同研究拠点「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」としての運営体制・研究活動について、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会や、学外組織である文部科学省による定期的な評価を受け、高い評価を得ている[1111i][1111n]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	研究組織としての、国際共同研究の積極的な推進、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成について、さらに重点的に推進する。

今後の改善・向上方策	
「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動において、文部科学省「共同利用・共同研究システム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」」の採択を目指し、国際共同研究の活性化・ネットワーク化・人材育成を重点的に推進する。また、国内のデジタルアース研究分野を先導する研究拠点として、大学や公的研究機関等の学術機関をはじめ、自治体やGISに関係する民間企業との連携を強化し、産学官による創発的な研究活動を推進する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111・1121	国際GISセンターとしての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と、進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行とのバランスをとって引き続き進める。
今後の改善・向上方策	
平素からセンター内教員のコミュニケーションを図り、研究活動の進捗状況についての情報共有を行う。共有された情報に基づき、センター長の主導により、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた研究活動の推進を行う。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
共同利用・共同研究拠点をはじめとするセンター研究活動をさらに活性化するため、センター外との研究交流や国際共同研究を深化するとともに、センター内教職員の情報共有とコミュニケーションを推進する。外部研究費の積極的な獲得を狙うとともに、研究計画に基づく進捗管理を適宜行い、バランスのとれた事業推進に努める。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	共同利用・共同研究拠点の認定について（通知）	○
1110	b	特色ある共同利用・共同研究拠点 中間評価報告書	○
1110	c	特色ある共同利用・共同研究拠点の中間評価結果について（通知）	○
1110	d	交流協定締結計画書	○
1110	e	Action Plan SIIT, TU（部分）	●
1110	f	SDGs に貢献するデジタルアース	○
1110	g	デジタルアース研究の現状と将来展望（2023）	○
1110	h	共同利用・共同研究システム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」への申請について	●
1110	i	特色ある共同利用・共同研究拠点支援プログラム ～拠点機能強化支援～ 申請書	●
1110	j	Asian Summer School in Bangkok 2023	○
1110	k	REPORT Asian Summer School in Bangkok 2023	○
1110	l	2023 年度 中部高等学術研究所 研究に係る事業計画と予算の提案	○
1120	a	2023 年度 第1回 国際GISセンター運営委員会議事録	●
1120	b	2023 年度第1回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1120	c	2023 年度第2回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1120	d	2023 年度第3回中部高等学術研究所 所員会議（メール審議） 議事録	●
1120	e	2023「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」応募課題評価コメント	●
1120	f	2023 年度 中部大学国際GISセンター 「問題複合体を対象とするデジタルアース共	●

		同利用・共同研究拠点」共同利用委員会	
1111	a	中部大学国際 GIS センター規程	○
1111	b	中部大学国際 GIS センター運営委員会規程	○
1111	c	中部大学国際 GIS センター「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会規程	○
1111	d	2023 年度 第 1 回 国際 GIS センター運営委員会議事録	●
1111	e	2023 年度第 1 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1111	f	2023 年度 中部高等学術研究所 研究に係る事業計画と予算の提案	○
1111	g	共同利用・共同研究拠点 令和 5 年度実施計画書	○
1111	h	問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2023 年度 成果報告会	○
1111	i	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2023	○
1111	j	共同利用・共同研究拠点 令和 4 年度実施状況報告書	○
1111	k	2023 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」応募課題評価コメント	●
1111	l	2023 年度 中部大学国際 GIS センター 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会	●
1111	m	特色ある共同利用・共同研究拠点 中間評価報告書	○
1111	n	特色ある共同利用・共同研究拠点の中間評価結果について（通知）	○
1121	a	2023 年度 第 1 回 国際 GIS センター運営委員会議事録	●
1121	b	2023 年度第 1 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1121	c	2023 年度第 2 回中部高等学術研究所 所員会議 議事録	●
1121	d	2023 年度第 3 回中部高等学術研究所 所員会議（メール審議） 議事録	●
1121	e	2023 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」応募課題評価コメント	●
1121	f	2023 年度 中部大学国際 GIS センター 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 センター規程、センター運営委員会規程、共同利用委員会規程により、研究活動の指針、及び継続的な業務内容の点検について規定し、事業計画と予算に基づき、研究活動を計画的に推進していることは評価できる[1111a][1111b][1111c][1111d][1111e][1111f][1111g][1111h][1111i][1111j]。 1121 管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検をセンター運営委員会、研究所所員会議、共同利用委員会を通じて審議・議論され持続的に業務内容の点検が行われており評価できる。議事録は適切に作成されている[1121a][1121b][1121c][1121d][1121e][1121f]。
長所・特色
1111 文部科学省共同利用・共同研究拠点としての運営体制・研究活動について、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会や、学外組織である文部科学省による定期的な評価を受け、高い評価を得ている[1111i][1111n]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	産業経済研究所
人員構成	運営委員 教員 7 人、職員 1 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	研究広報を充実させるため Web サイトによる情報発信を積極的に行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
研究発表会において、各研究員の専門分野を中心に研究の途中経過や成果を報告し、有効な議論を展開できるよう、研究所のホームページや掲示物等での告知に力を入れた[1111a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	研究発表会、「産業経済探究」の継続刊行を通じて、対外発信力を強化する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
「産業経済探究」の刊行は継続中であるが、対外発信力の強化については新たな取り組みは行えなかった。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
経済、経営、会計、情報、法律の各分野から IT の発展が企業の情報伝達や意思決定にどのような影響を与えているかについて、学際的な研究を進めるために 5 つの研究プロジェクトを設置し、探求する。また、持続可能な企業経営の実践例を洗い出し、それとともに地域連携を強化・推進するため、講演会や研究成果発表会などを開催する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			

現状説明				
中部大学産業経済研究所は、国際化、情報化、技術革新等に伴って生ずる経済、産業、企業経営の環境・構造変化等の調査・研究を行うことを目的[1111b]としている。 この目的を達成するため、 (1)他学部から意欲と実力を備えた研究員を含む5つの研究プロジェクトを推進 (2)定期刊行物の出版、研究発表会、Webサイトを活用した情報発信 (3)情報分野に関する研究活動に対して支援の実施、また地域と地方行政への積極的支援により社会貢献の向上を図る (4)講演会・研究発表会の開催や参加、また大学院生に対しての研究支援費用の支給を事業計画[1111c]としている。 事業計画に対する成果は、次のとおりである[1111d]。 (1)5つの総合研究（プロジェクト）を推進した。 6件（経営情報学研究科大学院生研究支援費含む）のプロジェクト[1111e]を立ち上げ、研究成果評価[1111f]を実施した。プロジェクト終了後に研究成果の提出を求め、運営委員により点検・評価[1111g]を行った。 (2)定期刊行物の出版、研究発表会、講演会、Webサイトを活用した情報発信を行った。プロジェクト活動の成果報告会として、研究発表会[1111h]を3月に実施した。 (3)情報分野に関する研究活動に対して支援を実施し、また地域と地方行政への積極的支援により社会貢献の向上を図った。 (4)講演会・研究発表会を開催し、また大学院に対して研究支援の支給を行った。 2023年7月と2024年1月に学外から講師を招いて産業経済研究所講演会[1111i][1111j]を開催した。 プロジェクト6に「大学院生研究支援費」[1111k]を設置し、大学院生へ研究支援を行った。				

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
運営委員会を開催し、研究活動の内容・進捗状況、研究プロジェクトの採択、研究員の構成等を検討し[1121a]、中部大学産業経済研究所規程[1111b]、および中部大学産業経済研究所内規[1121b]に則り、適切に行っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	研究所の活動について、詳細な規程に基づく独自の自己点検の実施。
項目 No. 1111	5つの総合研究（プロジェクト）の研究員を第1に学内公募、第2に研究所長による任命で決定。
項目 No. 1111	対外活動として公益財団法人中部圏社会経済研究所の活動に参加。[11111]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	研究所の活動に関する情報発信の充実。
今後の改善・向上方策	
研究発表会や講演会の参加者（とくに外部の参加者）増加をさせるため、研究所のホームページ等の活用を強化する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	「産業経済探究」の発行期日の遅延。
今後の改善・向上方策	
投稿者による原稿の提出期限を厳守させ、できるだけ校正を簡素化する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
本学他部署とのネットワークをも利用し、地方自治体、商工会議所等の諸機関、一般企業とのネットワークを強化し、各組織が持つ課題を探究することにより研究所自体の社会的ステータスのアップを図るとともに、大学院進学対象者が興味を持つ講演会を開催し、研究所と大学院の研究と教育が一体となる有機的活動を実施する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	中部大学産業経済研究所 WEB サイト https://www.chubu.ac.jp/news/22099/	○
1111	b	中部大学産業経済研究所規程	○
1111	c	2023 年度研究に係る事業計画と予算の提案	○
1111	d	2023 年度 活動報告（旧領域研究所、領域研究センター群）	○
1111	e	2023 年度産業経済研究所研究課題一覧	○
1111	f	産業経済研究所研究員の研究成果評価に関する覚書	○
1111	g	2023 年度産業経済研究所研究成果評価	△
1111	h	2023 年度産業経済研究所研究発表会（最終チラシ）	○
1111	i	産業経済研究所講演会（2023. 7）	○
1111	j	産業経済研究所講演会（2024. 1）	○
1111	k	産業経済研究所による経営情報学部研究科大学院生研究支援取扱要領	○
1111	l	中部圏社会経済研究所セミナー https://www.criser.jp/seminar/2023.html	○
1121	a	第 3 回産業経済研究所運営委員会議事録	○
1121	b	中部大学産業経済研究所内規	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 設置の目的を達成するための事業計画を立案し、成果を挙げている [1111b]。 1121 設置目的と年度重点目標に沿った研究を計画的に進めており、運営委員会を開催して研究所規程および内規に則り適切に運営されている[1111b] [1121a] [1121b]。

長所・特色
1111 当研究所の活動については、詳細な規程に基づき独自の自己点検を実施している[1111b] [1111f]。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究所
人員構成	専任・嘱託 59 人、派遣・契約事務補助員 1 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1130	重点目標の一つである「大学院の研究環境充実」のための大学院生特別研究補佐員制度の採用者決定を従来よりも早めて 7 月にすることができたが、これをさらに早める必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学院生特別補佐員の募集案内が遅れて 7 月初旬となり、採用者決定を前年度より早めることができなかった [1130a]。結果的に、候補者 18 名全員の採用決定承認が 8 月末となったが、従来通り 9 月からの制度開始に間に合うことができた [1130b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
研究所研究員の所内交流を活性化し、共同研究などを通して若手教員や大学院生などの研究力を向上させる。また、対面での学内シンポジウム・セミナーを増やし、学部生・大学院学生の教育に資する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			
現状説明				
毎年４月に研究支援課あて提出する事業計画に、研究所の目標と方策を記載し、それに基づいて研究推進を行っている[1111a]。具体的には、①研究所研究員の採択プロジェクトに研究助成を行い、研究力向上をサポートした[1111b]。プロジェクト採択者の研究成果発表会は行われていない。②新型コロナウイルス終息を受けて、多様な研究所セミナーをほぼ対面で開催し、研究所内外への情報発信と研究員の意識向上を図った[1111b]。③市民講座な				

どによる一般市民への教育啓蒙活動を行った[1111b]。研究面から生命健康科学部を社会により認知してもらうために魅力ある内容のセミナーを今後も企画する必要がある。④大学院生特別補佐員制度により大学院修士1年を対象に経済的支援を行った[1111b]。⑤過去最多となる32編の報告を研究所紀要に出版し、学部教員の研究発表を支援した[1111b]。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
運営委員会の開催については、研究所長の指示に基づき必要な時期に随時開催している。会議開催後は議事録を作成し、運営委員に周知している[1121a]。2024 年度の事業計画策定に向けた運営委員会を開催し、研究所運営の見直しを行った[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	一般向けの市民講座や学部教員、学生を対象としたAIセミナーの開催[1111b]。
項目 No. 1111	32編の報告を研究所紀要 Vol. 20 に出版した[1111b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	研究所研究員の研究力向上・活性化
今後の改善・向上方策	
過去の研究プロジェクト採択者を中心とする研究交流発表会を実施し、教員の研究分野や専門性の確認・情報交換の場とする。特に若手教員の意識向上・研究活性化を図ると同時に、学部学生の参加を促し、研究所研究員の研究内容の理解や大学院への興味をより高める企画を実施する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
大学院構成員（教員・大学院生など）の研究力向上と情報交換の促進 萌芽的な若手研究をサポートする研究プロジェクトの新設。 研究所予算プロジェクト採択者を中心とする研究交流発表会の開催。 大学院生の増加と研究環境の充実 大学院生特別研究補佐員制度を活用した大学院生の経済的支援を行うとともに、研究所セミナーや研究交流発表会などへの学部生の積極的な参加を促し、大学院への進学を後押しする。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1130	a	大学院生特別補佐員 2023	○
1130	b	2023 年度大学院生特別研究補佐員の審査（運営委員会メール）	○
1111	a	資料 4. 2023 年度 研究に係る事業計画と予算の提案（改訂版）	○
1111	b	資料 3. 2023 年度 活動報告（旧領域研究所、領域研究センター群）	○
1121	a	2023 年度 第 1 回生命健康科学研究所運営委員会議事録	○
1121	b	◎2023 年度 第 2 回生命健康科学研究所運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 事業計画に基づき、研究セミナー・市民講座などにより研究所内外への情報発信や教育啓蒙活動を行っている。また、研究所紀要に過去最多となる 32 編の報告を出版した [1111a] [1111b]。
1121 運営委員会を開催し、研究所運営の見直し等を検討。適切に議事録を作成している [1121a] [1121b]。
長所・特色
1111 研究セミナー・市民講座を開催し、内外への情報発信を行っている。研究所紀要に過去最多の 32 編の報告を出版している [1111b]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	実験動物教育研究センター
人員構成	専任・嘱託 3 人、派遣・契約事務補助員 7 人

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1110	ゲノム編集技術の効率化、新手法の開発。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
効率的なゲノム編集法に関する研究成果を関連学会で4件報告し、うち1件で奨励賞を受賞。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	職員の労働環境改善について、粉塵・騒音等、改善を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
光触媒 脱臭機を導入したところ汚臭が改善された。 クリーンエリア内室圧調整、ドアの隙間を塞ぐことにより、騒音が改善された。 粉塵については引き続き対応中である。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
昨今の急激なゲノム編集技術の進歩に対応するため、より精度の高い新規ゲノム編集技術を開発することで、センター利用者への支援も視野に入れた遺伝子組み換え動物作製業務を実施する。さらに、2015 年より開始した凍結精子・凍結胚の保存ならびにマウス体外受精による個体化の技術支援サービスも継続して実施する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1111	研究組織において、計画的に研究活動を推進しているか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているか。			

現状説明
毎年 5 月に研究推進事務部宛に提出する事業計画に年度重点目標を記載し[1111a]、それに基づいて研究推進を行っている[1111b]。また、秋にセンター所属教員の翌年度の研究について検討し、日本学術振興会 科研費（教授、講師）、学内特別研究費（教育技術員）の申請書に基づいた研究を行っている[1111c] [1111d] [1111e]。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
毎年３月頃に定例の動物実験委員会を開催している[1121a]。また、動物実験計画書の立案、審査、承認について、動物実験委員会を通し適正に審議している。複数年度にまたがる計画については、年度毎に継続審査が行われている。2023年度は、87件（生命健康科学部57件、応用生物学部29件、工学部1件）の動物実験計画書の申請がなされ、動物実験委員および動物実験委員会専門委員による厳正な審査を経て承認している[1121b] [1121c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1111	染色体レベルでの新しいゲノム編集法の開発、染色体疾患モデル動物の解析を行っている（科研費基盤研究(B)、日本私立学校振興・共済事業団 学術研究振興資金）[1111c] [1111d]。
項目 No. 1121	動物実験委員会を定期的に開催しており、動物実験計画書の審査等を怠りなく行なっている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1111	ゲノム編集技術の効率化、新手法の開発。
今後の改善・向上方策	
ゲノム編集マウスを解析すると同時に、確立した新手法を応用したマウスの生体内における染色体異常の修復ができるかを試みる。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	職員の労働環境改善について、粉塵・騒音等、改善を行う。
今後の改善・向上方策	
清浄度維持のため、長年使用された飼育ラック裏の分解消毒、自動給水ノズルおよび配管の定期交換をする。 安全確保のため、トビラや電子錠の不具合、床や階段ステップの剥がれ等、補修する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
将来的なゲノム医療への応用を見据えた精度の高い新規ゲノム編集技術を開発する。さらに、2015 年より開始した凍結精子・凍結胚の保存ならびにマウス体外受精による個体化の技術支援サービスも継続して実施する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1111	a	動物センター1111a：2024 年度事業計画・予算案	●
1111	b	動物センター1111b：2023 年度 活動報告	●
1111	c	基盤(B)_ゲノム安定性制御分子を利用したマウス染色体再編成の最適化と臨床応用の基盤構築	△
1111	d	学術研究振興資金_染色体異常の高精度な修復を目指した新規ゲノム編集法の開発	△
1111	e	特別研究費 R_マイクロインジェクション法を用いたノックインマウス作製基盤の確立	△
1121	a	動物センター1121a：2023 年度 第 1 回 動物実験委員会資料	●
1121	b	動物実験計画書審査議事録	△
1121	c	各利用者の自己点検票および研究成果報告書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1111 年度重点目標に基づいて研究推進を行っており[1111b]、日本学術振興会 科研費（教授、講師）、学内特別研究費（教育技術員）の申請書に基づいた研究を行っていることは評価できる[1111c] [1111d] [1111e]。1121 動物実験委員会を開催しており[1121a]、動物実験計画書の立案、審査、承認について、適切に審議されている。複数年度にまたがる計画についても年度毎に継続審査が行われ動物実験計画書の申請がなされ、動物実験委員および動物実験委員会専門委員による厳正な審査を経て承認している[1121b] [1121c]。
長所・特色
1111 染色体レベルでの新しいゲノム編集法の開発、染色体疾患モデル動物の解析を行っている（科研費 基盤研究(B)、日本私立学校振興・共済事業団 学術研究振興資金）[1111c] [1111d]。1121 動物実験委員会を定期的に開催しており、動物実験計画書の審査等を怠りなく行われている。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	女性活躍推進室
人員構成	専任・嘱託 10 人、派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	女性教職員支援の具体的な方策の検討及び実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
女性教員が出産等の休暇後、円滑に復帰できるよう支援するための新たな制度の検討を行い、「中部大学における女性教育職員のための研究活動復帰支援制度に関する規程」（2023 年 10 月 1 日制定）を制定した。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	女子学生増加に向けた取り組みの検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
・高校生の進路決定に最も影響を与える保護者に対し、本学の手厚いサポート体制を示し安心感を持たせることを目的に「包容力パンフレットの作成」し、オープンキャンパス等で配布した。 ・学部ごとの現状を把握するために各学部長・副学部長に対し、室長・副室長による女子学生増加策等の検討に係るヒアリングを実施した。ヒアリングの結果を基に女性専用バスのニーズ調査や生理用品の無償設置に向けたアンケートを実施、検討を行い、生理用品の無償設置を実現した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学園ビジョンにも掲げられている女性教職員支援策強化の更なる推進を目的に、女性が安心して活躍できる環境づくりの推進を図るとともに、女子学生の増加に対する方策を検討する。そのために、教職員へのニーズ調査を実施し、現状の課題を抽出して今後の具体的な方策への議論を進める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
運営委員会を年3回開催し、女性が安心して活躍できる環境づくりの推進や、女子学生の増加に対する方策の検討を行った。幅広い学部学科や部署に所属する教員7名、職員4名の委員で構成され、教員、職員、両方の視点で、活発な意見交換が行われている。適宜、ガールのスペースを活用した意見交換も行っている。生理用品の無償設置に向けた、試験的な設置では、各学部事務室、学生支援課、学生サポートセンター等、部署間を超えた連携を図った。[1121a]				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
女性活躍推進室運営委員会を中心として、規程に定められた設置目的等に則して、女性活躍推進室としての目標や事業の計画を検討し実行している。2023年度は、女子学生増加策等の検討のため、各学部長・副学部長にヒアリングを行い、女性専用バス、生理用品の無償設置についての検討を進め、生理用品の無償設置を実現した。また2022年度に作成した育児休業取得者に対する管理職用フローについて、ホームページやメール、各種会議体にて教職員向けに周知を行った。女性活躍推進室運営委員会については、議事録案をガールーンで運営委員に共有し、意見を聞いて反映した上で議事録を確定としている。[1121a] [1121b]				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	「育児休業取得者に対する管理職用フロー」の継続的な周知 [1121c]
項目 No. 1121	包容力パンフレットの作成 [1121d]
項目 No. 1121	中部大学における女性教育職員のための研究活動復帰支援制度に関する規程の制定 [1121e]
項目 No. 1121	女子学生増加策等の検討に係るヒアリング [1121f]
項目 No. 1121	生理用品の無償設置・アンケートの実施（女性専用バスのニーズ調査）[1121b]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	女性教職員への支援に向けた取り組みの検討
今後の改善・向上方策	
2023年度は、「中部大学における女性教育職員のための研究活動復帰支援制度に関する規程」を制定し、1名が制度を利用した。今後も本制度や「育児休業取得者に対する管理職用フロー」等の継続的な周知を図り、働きやすい環境整備に向けた取り組みを推進していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	女子学生増加に向けた取り組みの検討
今後の改善・向上方策	
「女子学生比率の向上」も女性活躍推進室に与えられているミッションのひとつである。2023 年度は女子学生へアンケートを実施し、ニーズの多かった生理用品の無償設置に向けた検討・試験的運用を行い、2024 年度より本格的な設置を開始している。今後も学生や教職員の意見を基に、関連部署と協働で女子学生増加に向けた取り組みの検討・実施を進める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
2023 年度は前年度実施した教職員向けアンケートや、学生向けのアンケートを基に取り組みを検討し、女性教育職員のための研究活動復帰支援制度に関する規程の制定や、包容力パンフレットの作成、生理用品の無償設置など実質的な取り組みにつなげることができた。
2024 年度は女子学生が学部横断型で交流できる企画の立案など、引き続き、新たな取り組みの実施に向けた検討を進めていく。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2023 年度女性活躍推進室活動報告	○
1121	b	2023 年度第 3 回女性活躍推進室運営委員会資料	○
1121	c	育児休業等取得者に対する管理職対応フロー(報告・学部長・研究科長会) https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-5317.html	○
1121	d	包容力パンフレット	○
1121	e	中部大学における女性研究者のための研究活動復帰支援制度に関する規程 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-5431.html	○
1121	f	女子学生増加策等の検討に係るヒアリング	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 教員と職員で構成されている女性活躍推進室運営委員会によって、女性教職員や女子学生へのアンケート調査やヒアリングを実施して、女性が働く環境の整備と女子学生確保に向けた取り組みを検討している。議事録も作成されている[1121a] [1121f]。
長所・特色
1121 女性教職員のための研究活動復帰支援制度（2023 年度 1 名利用）[1121c]、育休取得者に対する管理職用フロー[1121c]、保護者向けの「包容力パンフレット」の作成[1121d]、女子学生向けに生理用品の無料配布[1121b]といった具体的な支援策を実施している。
留意点
特になし

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	民族資料博物館
人員構成	専任・嘱託 5 人、派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	収蔵資料の学術情報の充実のための寄贈資料の受入れ後の調査、評価、審議。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
寄贈資料については、「寄贈資料受入要綱」[1120a]にもとづき、管理運営組織構成員における定例会議[1120 b]において調査確認、評価をして、運営委員会において承認を得て受入れを行っている[1120c]。資料調査は受入れに分野別の優先順位を設け、外部の専門研究者に学術的観点からの意見を収集している[1120d]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
組織力向上のため、特に情報共有の徹底と守秘義務に注意する。収蔵資料の保存、解説情報の調査補充、広報ツール作成の各種活動状況を整理し、今後の企画に活用する。具体的にはメモリアルホール三浦幸平記念室の冊子作成用の調査記録を通じデータベースアーカイブの情報収集を継続、収蔵庫の保存環境を再検討し、より整備する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
民族資料博物館の職員は、館長（専任教員）以外は、大学組織の学事部に所属する事務職員がその業務にあたっている。寄贈資料等の各種手続きが発生する際には、民族資料博物館の内規にあたる「寄贈資料受入要綱」[1120a]にもとづく他、学事部が法人および大学の関係部署と適切な対応について各種規程をもとに協議し、その経過を民族				

資料博物館の定例会議等において館長へ報告をし、判断を仰ぎ、起案決裁、運営委員会における承認をとる流れをとっている。一方、教育研究活動の支援については、博物館展示室における見学授業における解説を求められる場合は、民族資料博物館の職員のうち、学芸業務兼務担当者が対応している他、企画展図録の制作で収集した情報を、公開系データベース「中部大学 WEB ミュージアム」[1013a]へ登録追加することで情報の充実化を図り、学生及び地域の学びのための提供情報の更新を継続していくよう意識している。学術情報の専門性や最新化は重要であることから、今後はより一層、教員との連携が必要と考えている。

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
管理運営組織構成員における定例会議を開催し[1120b]、年度活動を検討し、運営委員会へはかっている。運営委員会は開催にともない議事録を作成し、事務的に適正に行っている[1120c]。臨時予算を必要とする改善計画案については、中期予算計画、学長ヒアリング資料へ申請し、予算がついたものについて具体的な活動内容を定例会議で計画し実行している。収蔵資料の学術情報調査では、外部の専門研究者より学術的な観点における意見を収集している[1120d]。 活動状況は、運営委員会の他、外部有識者で構成する外部専門委員会へ報告し、中長期的な活動への展望について助言を仰いでいる[1121a]。また、一般への活動記録の公開の場として、定期刊行物を作成発行し、ホームページにて掲載公開している[1121b]。収蔵資料、および大学歴史資料他の大学コレクションの一部については、公開系データベースを構築し、さらに大学サイト掲載用のコンテンツ画像ページを作成し、ホームページにて掲載公開している[1013a]。その他に、学園草創期の資料を展示する三浦幸平記念室の配布用リーフレットを作成し、学内外に向けて配信できる学園のアーカイブ資料を作成した[1121c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目No. 1121	外部の専門研究者より学術的観点における意見の収集
項目No. 1121	公開系データベース(中部大学WEBミュージアム)の構築と大学サイトへのコンテンツ画像ページ作成掲載による、収蔵資料および大学コレクション資料一部の一般公開
項目No. 1121	三浦幸平記念室リーフレット（一般配布用）を作成

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目No. 1121	・2022年度に公開データベースの運用を開始したことから、大学の魅力認知度の向上に寄与するには、博物館の企画催事や公開データベースを通じて、資料情報を継続して発信していく点が重要である。博物館資料、および大学歴史（アーカイブ）資料の詳細な学術情報記録を補充し、教育活動や大学広報へ活かす具体的な対策が必要である。 ・2023年4月より、博物館法が70年ぶりに改正となり、民族資料博物館が保有する資格「博物館相当施設」は「指定施設」に名称変更となった。対象施設は、あわせて博物館の運営や活動方法について改正内容に添うよう、県教育委員会による指導（基本要件の確認）が2027年度に行われる予定であり、情報収集と対応の準備が必要。

今後の改善・向上方策
・運営委員会委員とより連携し、学生の意欲につながる研究テーマを念頭に博物館活動の企画催事を工夫する。 ・年間の各種の業務の進行計画において、博物館資料の情報収集（調査）と情報発信への対応を進めるようにスケジュール調整を工夫する。 ・学術情報収集のために、外部有識者や専門研究者の協力を継続して受けることができるよう、中期的に調査対象の優先順位を設け、年度別の予算立てを計画的に立案していく。 ・博物館法の法改正への対応は避けられないことから、他館（他大学を含む）や関連機関（日本博物館協会、愛知県博物館協会）等で情報収集を行いながら、審査に向けた適切な準備をする。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
展示室の学習環境の整備について、企画催事を通じて調査した学術情報をもとに展示資料の解説内容を順次更新し、鑑賞環境の充実にむけて工夫する。 収蔵資料の保存については、収蔵庫の状態を順次見直し、特注の専用保存箱への入替えを計画する等、博物館資料の中長期的な保存を念頭にした環境を整えるよう工夫する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.	根拠資料の名称		提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学民族資料博物館寄贈資料受入要綱	○
1120	b	2023 年度 民族資料博物館 定例会議 次第	△
1120	c	2023 年度 第一回民族資料博物館運営委員会 議事録 2023 年度 第二回民族資料博物館運営委員会 議事録 2023 年度 第三回民族資料博物館運営委員会 議事録	○
1120	d	2023 年度 年間報告書	△
1013	a	公開系収蔵資料データベース「中部大学 WEB ミュージアム」(サイト画面) https://www.chubu.ac.jp/about/web-museum/	○
1121	a	2023 年度 民族資料博物館外部専門委員会 議事録	○
1121	b	中部大学民族資料博物館ホームページ[出版物] (サイト画面) https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/summary/publication/	○
1121	c	中部大学 三浦幸平メモリアルホール三浦幸平記念室リーフレット	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 寄贈資料等の各種手続きは、寄贈資料受入要綱や規程に基づき、運営委員会にて適切に承認されている [1120a]。教育研究活動の支援は公開系データベースに登録をすることで情報の充実化を計り、学びのための情報提供に寄与している [1013a]。

1121 運営委員会で活動内容や役割等の検討、確認が適切になされている [1120b] [1120c] [1120d] [1121a]。公開系データベースを構築し情報の充実化に努めている。大学 Web サイトにて情報を学内外に公開している [1121b] [1013a]。
長所・特色
1121 運営委員会が適切に運営されており、且つ外部の専門研究者より意見を収集していることは評価できる [1120b] [1120c] [1120d] [1121a]。 公開系データベースと大学 Web サイトにより資料の一部を一般公開し情報を発信。また三浦幸平記念室リーフレットを作成することにより大学の魅力認知度の向上に寄与していることは評価できる [1013a] [1121b] [1121c]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	蝶類研究資料館
人員構成	専任・嘱託 4 人、派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	・ 藤岡コレクションを本学の教育研究にどのように活用するか（継続課題） ・ 標本資料の「保存・保管」と「有効活用」の両立のための一つの方策として、「画像データの作成」及び「ID 番号の付与作業（約 8 万頭）」を進める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
先ずは、学内外に中部大学が藤岡コレクションを保有していることを知ってもらうことがスタートと考え、また、今年度は蝶標本移管完了記念として、昨年度に引き続き春日井キャンパスでの企画展示のほか、シンポジウム、サイエンスカフェを開催した。展示会「不世出の蝶コレクター藤岡知夫の世界」は、10月24日から11月15日まで、図書館のエントランスホール&ラウンジにて開催し、昨年度に比して638名増の1,223名（内訳：学生211名、教職員82名、一般930名）の入場者を迎えた。また、シンポジウムでは78名、サイエンスカフェでは51名の入場者があり、入場者には昨年度作成した「資料館パンフレット」を配布するなど、本学の学生、教職員及び学外者に藤岡コレクションの存在を認識してもらうことができた。また、今回も、受付スタッフ（16名）を応用生物学部等の学生に依頼するなど、学生をも巻き込んだ企画開催とすることができた。また、地元不二ガ丘町内会の回覧板に「展示会のチラシ」を加えていただき、地元にもPRできた[1120a] [1120b]。 画像データの作成については、日本産蝶全272種・雌雄・裏表のデータを作成することができ、完了した。また、ID番号の付与作業については、未付与約80,000頭のうち、10,200頭について付与することができ、2024年度も継続して行う予定である。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・ 組織力の向上のため、情報共有の徹底とともに守秘義務に注意する。 ・ 蝶標本移管完了を記念した「企画展示・シンポジウム」の開催を行う。 ・ 藤岡コレクション情報の収集・活用の取り組みとして、蝶類研究資料館の紹介動画の作成を計画・実施する。 ・ 藤岡コレクション画像データ（日本産蝶約260種雌雄・裏表）の作成を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4

段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
蝶類研究資料館の運営に関する重要事項を審議するため、中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程に則り、職員を含むメンバーで構成される運営委員会を設置している。毎年開催する運営委員会では、前年度の活動報告を行い、活動の点検・評価を行っている[1013a] [1013b] [1013c] [1013d]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
中部大学蝶類研究資料館規程、中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程に則り、活動を行っている[1013a] [1013b]。学外の専門家の協力を得ての活動体制（運営委員会、小委員会）を組織している[1013c] [1121a]。館長を委員長とする小委員会（運営委員会規程第9条「専門部会」に相当）は、学内の実務担当者と学外機関の協力者でメンバーが構成されており、館の運営に関連する事柄、事業計画、藤岡コレクションの活用などについての「案」を策定し、それを運営委員会に提案している。運営委員会での「案」についての審議・結果を受け、小委員会では具体的な活動を実施する役割も担っている。毎年度最初の第1回運営委員会では、前年度の活動報告を行い、活動の点検・評価を行っている。2023年度は5月に第1回運営委員会を開催し、2022年度の活動報告を行い、了承を得た。また、2023年度の活動計画案が審議され承認された。2023年度は、昨年度に引き続き、春日井キャンパスでの企画展示に加え、シンポジウム、サイエンスカフェを開催し、今まで以上の本学学生、教職員を迎えることができ、また、アンケートにもご協力いただいた。アンケートの集計結果は次回以降の運営委員会で紹介し、当館の課題である「藤岡コレクションを本学の教育研究にどのように活用するか」等について役立てる予定である[1121b]。また、2023年度の活動計画のうち「蝶類研究資料館の紹介動画の作成」については、2024年3月に完成、「藤岡コレクション画像データの作成」についても、日本産蝶272種雌雄・裏表について撮影することができた。運営委員会議事録作成については、「中部大学学内委員会等諸会議運営に関する申合せ」に準じて行っている[1013d]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学外の専門家の協力を得ての活動体制（「運営委員会」「小委員会」）

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	・藤岡コレクションを本学の教育研究にどのように活用するか（継続課題）

	・標本資料の「保存・保管」と「有効活用」の両立のための一つの方策として、「画像データの作成」及び「ID 番号の付与作業（約 70,000 頭）」を進める。
今後の改善・向上方策	
・教育、社会貢献面では、2023 年度は、前年度に続き春日井キャンパスでの「企画展示」を開催した。次年度以降も春日井キャンパスで展示会を行い、地元春日井地区からの見学者、特に小中学生（将来の研究者発掘）の見学者を呼び込む方策を引き続き検討していく。また、本学の学生・教職員にも蝶標本の存在を知ってもらい、特に学生にとってどのように有効活用できるかを検討する。 ・研究面では、中部高等学術研究所が主体となり、藤岡コレクションデジタル化の計画が進行中である。2019 年度からギフチョウの撮影が始まり、約 7,200 頭のデジタルデータが蓄積された。残った約 3,500 頭については、今後も撮影を継続し早期の完成を目指す。また、「管理用データベース」の構築も合わせて進行中である。 ・蝶標本の管理面では、2022 年度に全移管作業が終了し、最終の箱数・頭数は 1,755 箱・289,919 頭となった。そのうち、移管初期の標本で ID 番号が付与されていない約 70,000 頭に対して「早期付与」を目指し、実施方策を検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・蝶標本への ID ナンバー付与作業 ・藤岡コレクションの学術的利用の検討 ・蝶類研究資料館及び藤岡コレクションの広報効果を検証し、効果的な情報発信の検討 ・蝶標本のデジタル化及び標本情報の DB 化

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2023 展示会チラシ	○
1120	b	2023 展示会新聞記事	○
1013	a	中部大学蝶類研究資料館規程	○
1013	b	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程	○
1013	c	2023 年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会名簿	○
1013	d	2023 年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会議事録	○
1121	a	2023 年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会小委員会名簿	○
1121	b	2023 展示会アンケート集計結果	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 規程に則り、職員を含むメンバーで構成される運営委員会を設置し、運営委員会では、前年度の活動報告を行い、活動の点検・評価が行われ、組織が適切に機能していることが評価できる[1013a] [1013b] [1013c] [1013d]。

1121 規程に則り、活動が行われており[1013a][1013b]、館長を委員長とする小委員会では、館の運営に関連する事柄、事業計画、藤岡コレクションの活用などについて、運営委員会に提案を行い、審議・結果を受け持続的に業務内容の点検が行われている。
長所・特色
1121 学外の専門家の協力を得ての活動体制（「運営委員会」「小委員会」）がある。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	東京サテライトオフィス
人員構成	専任 3 人 (兼務)、派遣職員 2 名

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	利用者促進策の検討、実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
・オフィス所員のミーティング等で検討した利用者促進策を実施した結果、2023 年度のオフィスの利用者数はコロナ前の 2/3 程度、教職員の利用は 3/4 程度まで回復した。学生・生徒の利用はコロナ禍前の水準に戻りつつあり、今後もさらなる利用促進を目指す（2024 年度の年間利用者数目標：400 名）。 ・中部大学同窓会東京支部の総会や支部会、幹部会を開催するなど、同窓会との連携が進んでおり、同窓生の利用者数は過去 5 年間で最も利用が多かった。他にも近年では学園の連携・協定先の利用も増加しており、今後も学園関係者の関東圏での活動拠点としての活用をすすめる。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
SNS やホームページ、動画等を活用したオフィスの PR 活動を強化したり、大学・学園の会議などで様々なシーンで積極的な広報活動をしたり、中部大学同窓会や東京事務所会など学外の組織との連携を推進することにより、さらなる利用促進を図り、教職員や学生の首都圏の活動拠点としてより積極的に活用してもらえるよう努める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			

現状説明
・中部大学同窓会東京支部や東京事務所会との連携（卒業生や他大学とのネットワーキング）【1121a】 ・オフィス利用促進のための環境整備（設備更新等）【1121b】 ・ホームページの更新や改善、オフィス紹介動画の作成などでオフィスのPRを図るなど、広報を強化した。【1121c】

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明	・半期に一度、運営に係る全体会議を実施し、業務報告、今後の方針の策定、意見交換等を行っている。（2023年度は4月14日、9月22日に開催） ・週に一度、オンラインミーティングを行い、業務内容や予定等を確認している。[1121d]、[1121e]			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》
項目 No. 1121 東京事務所会との連携（他大学とのネットワーキング）

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》
項目 No. 1121 利用促進策の検討・実施
今後の改善・向上方策
・キャリア支援課との連携による就職活動での利用促進 ・教職員や学生向けの積極的な広報 ・中部大学同窓会東京支部や東京事務所会との連携（卒業生や他大学とのネットワーキング） ・関東地区での拠点としての活用促進（例：併設校生徒の関東地区受験、教員の研究等の会合、学生募集活動）

課題事項 《箇条書き》
項目 No. 1121 オフィス利用促進のための環境整備
今後の改善・向上方策
・オンライン会議等の利用が増加していることから、利用者よりWi-Fiなどネットワーク環境整備が求められているため、対応を進める。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
SNSやホームページ、動画等を活用したオフィスのPR活動を強化したり、大学・学園の会議など様々なシーンで積

極的な広報活動をしたり、中部大学同窓会や東京事務所会など学外の組織との連携を推進することにより、さらなる利用促進を図り、教職員や学生等の首都圏の活動拠点として、より積極的に活用してもらえるよう努める。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	2023 年度大学東京事務所会実施内容一覧	○
1121	b	2023 年度に導入した機器 (写真)	○
1121	c	ホームページ更新・SNS 投稿 https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/tokyo/ https://www.instagram.com/chubu_sns/	○
1121	d	東京サテライトオフィス全体会記録	○
1121	e	定例 Zoom ミーティング記録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 コロナ禍で利用者数が減少したが、オフィス所員の努力によって回復してきており、学生・生徒の利用については以前の水準に戻りつつある[1121d]。同窓会東京支部や他大学の東京事務所会との連携、あるいはキャリア支援課や併設校との連携を強化するとともに。SNS などのメディアを活用した広報活動にも注力している[1121a][1121c]。 1121 半期に一度。全体会議を実施し、週に一度はオンラインミーティングを行い内容は全体会記録として残されている[1121d]。
長所・特色
1121 東京に事務所を置いている他大学との連携のため東京事務所会に参加して、相互に利活用について情報交換している[1121a]。
留意点
特になし

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	理事長・総長室
人員構成	専任・嘱託 8 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	新たな体制のもとでの高大課題検討委員会の運営
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
4 つの WG とともに大学と高校の間の情報共有と課題解決の促進を図るべく活動を行い、生徒募集や課外活動における併設校間連携の取組の実施など、新体制のもとで充実した活動を展開することができ、学園ビジョンにある「併設校のさらなる発展」および「学園の運営基盤強化」に資する活動を推進することができた [1120a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	スポーツブランディング事業推進室の活動の充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学園の各設置校において特別強化クラブを指定して具体的な支援内容を検討し、2024 年度より支援を開始する筋道を立てることができた。また、地域貢献活動を支援するための仕組みづくりや、理事長顕彰式や日本航空高等学校石川ラグビー部員の中部大学研修センターでの受入れなど、スポーツブランディング関連事業の実施や、コンプライアンス強化に関する室長のメッセージ発信やコンプライアンス研修の実施など、「中部大学スポーツ宣言」に則った本学園のブランド力向上につながる活動を推進することができた [1120b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学園の執行部体制が変更となっても、理事長・総長室の官房機能が維持できるよう、スムーズな体制移行をサポートし、引き続き幹部の業務を支えることができるように努める。また、スポーツブランディング事業推進室など新たな事業に関しても、事務統括本部や各責任部局と連携して協働で業務をすすめる。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」

も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	S
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
スポーツブランディング事業推進室の関連業務の遂行に関して、学生教育部や学園広報部、併設校事務部（各併設校事務室）や財務部などの各部署と連携し、特別強化クラブへの支援内容の検討と実施、各種ブランディング事業の実施と情報発信を行い、部署の垣根を超えた連携関係を構築して業務にあたることができた [1120b]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	S
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
高大課題検討委員会においては、学園ビジョンに掲げられた「併設校のさらなる発展」を実行すべく、高大連携に向けた諸課題を共有するとともに、入学状況や退学・除籍率など具体的な数値での現状把握と情報共有を行い、それを踏まえた上で、課題解決や現状の改善に向けた方策が議論され、実行に移されている [1120a]。 また、高大課題検討委員会およびスポーツブランディング事業推進室運営委員会において、委員会の開催について決裁を取っており、議事録についても委員に確認をして作成し、次の回の委員会で再度確認をしたうえで確定としている [1121a] [1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	スポーツブランディング事業推進室での学園のブランディング力向上のための取組[1120b]
項目 No. 1121	併設校間連携の新たな取組の実施（併設校合同説明会、ESD 併設校合同発表会）[1120a]
項目 No. 1121	第一高校と工学部・理工学部との意見交換会の実施[1120a]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	新たなシナジーを創出するための中高大連携のさらなる推進
今後の改善・向上方策	
少子化が進行する中で、併設校と大学の双方の発展につながり、お互いによりシナジーを生み出すサイクルを創出できるような、学生・生徒募集、教育活動、課外活動においての新たな連携の形を模索し、学園の一体運営と併設校のさらなる発展の実現を目指していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	スポーツブランディング事業のより一層の実質化

今後の改善・向上方策
特別強化クラブへの支援、情報発信の強化、コンプライアンス遵守の徹底など、初年度に実行に移すことのできた事業をより実質化し、スポーツを通じて学園のブランド力が向上するような取組を推進し、スポーツクラブ活動を通じた人間力育成に積極的に取り組み、地域から愛される学園を目指した活動を行う。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
学園の経営改善および次期学園ビジョンの案の策定を目指して設置された、経営改善タスクフォースの活動が円滑に進むよう、事務局としての機能を充実させるとともに、あらかじめ設定されたタイムラインにしたがって、経営改善方策や次期学園ビジョンの骨子の策定などが進むことを念頭に業務を遂行する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2023 年度 4 回高大課題検討委員会資料	○
1120	b	2023 年度第 9 回スポーツブランディング事業推進室運営委員会資料	○
1121	a	起案文書（理事長室）（2023 年度高大課題検討委員会委員について（伺い））	○
1121	b	起案文書（理事長室）（「2023 年度 スポーツブランディング事業推進室運営委員会」委員について（伺い））	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 スポーツブランディング事業推進室では、各部署と連携し、各種ブランディング事業を実施し情報発信を行っている [1120b]。
1121 高大課題検討委員会等の開催は決裁を取り、課題や改善点について業務内容の点検が行われており、議事録が適切に作成されている [1121a] [1121b]。
長所・特色
1013 スポーツブランディング事業のより一層の実質化をはかっている [1120b]。
1121 学園ビジョン「併設校のさらなる発展」のため、併設校間や第一高校と大学での連携を強化すべく新たな取組を実施していることは評価できる [1120a] [1121a]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	管財部管財課
人員構成	専任・嘱託 4 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	施設使用状況の把握
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度キャンパス整備委員会で行った施設利用状況調査の回答を分析し、施設使用状況のデータを整備した。実験室等の各施設の使用者が明確となり、今後のスペースマネジメントにデータを活用していく。今後はデータ更新を適切に行い、最新情報の維持に努めて行く[1120a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	各種申請、届出の電子化の推進
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
施設・設備整備依頼書はガールンワークフローでの依頼が定着してきている。その他の申請、届出の電子化は今後の課題としている[1120b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
施設利用状況調査の回答結果を分析し、各部屋の利用状況の見える化をはかる。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
-----------	------	--	------	---

評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
「業務分担表」により課員の担当業務を明確にし、4月の管財課ミーティングで周知している[1013a]。	

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
重点目標を「年度業務スケジュール」に取りまとめ、担当者とスケジュールを明確にしている[1121a]。また主管しているキャンパス整備委員会は10月に開催し、議事録を適切に作成している[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	ガルーンを活用した情報共有
項目 No. 1121	「年度業務スケジュール」により、重点目標の期限が明確になっている

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	各種申請・届出書の電子化（ガルーン活用）
今後の改善・向上方策	
施設・設備整備依頼書以外の各種書類の電子化が進んでいない。電子化により決裁スピードの短縮、事務工数の削減を見込むことができる。まずは移行可能な書類を仕分け、電子化移行への検討を開始したい。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	課員の業務平準化
今後の改善・向上方策	
メンバーは課長以下3名の少ない人数で業務を行っており、一部職員に業務が集中している状況となっている。業務の見直しにより平準化するとともに、業務が属人化することのないよう業務を分担する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・スペースチャージ単価の見直し ・業務効率化に向けて、管財システム更新の検討を進める

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	ARES 面積データ (20240101 現在統合ファイル.CSV)	△
1120	b	施設・設備整備依頼ガルーワークフロー画面	○
1013	a	2023 管財課業務分掌	○
1121	a	2023 管財課業務スケジュール	○
1121	b	第1回キャンパス整備委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 業務分担表により課員の担当業務を明確にし、4月の管財課ミーティングで周知していることは、組織が適切に機能することにつながっている。
1121 重点目標を年度業務スケジュールに取りまとめ、担当者とスケジュールを明確にしていること、キャンパス整備委員会を開催し、議事録を適切に作成していることは、管理運営組織において、業務内容の点検を行っている と評価できる [1121a] [1121b]。
長所・特色
1013 ガルーを活用した情報共有が行われている。1121 年度業務スケジュールにより、重点目標の期限が明確化されている。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	管財部 施設課
人員構成	専任・嘱託 9 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	キャンパスマスタープランの策定
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
キャンパスマスタープランの具体的な計画の作成に取り掛かるために、専門業者へ業務を委託するためにプレゼンテーションを実施し選定を行った。その後、キャンパスマスタープラン専門部会の発足により専門業者と共に計画を進めている[1120a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	施設課の業務改善
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
新事業計画システムは 2025 年度運用開始を目標に取り組んでいる。業者選定に際し、現システムの仕様を専門業者へ示し、選定業務を実施中[1120b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
○キャンパスマスタープランの策定 ・具体的な中期建物更新計画に着手する。 ・すでに着手した理工学部改組、人文学部校舎建替え事業を予定通り完成させる。 ○施設課の業務改善 ・施設課事業計画システムと購買課調達システムの統合した新システムの完成を目指す。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
1013 (2) 理工学部改組、人文学部校舎建替え事業に際し、新棟建設における実験室等の諸室の仕様を購買課と共に理工学部・人文学部の担当教員と打合せ会議を開催し、利用者のニーズに応えた建物を完成させた 1013a]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 (1)年度重点目標の設定は、2023 年度管財部施設課業務分担表に明記され、随時点検されている[1121a]。 1121 (2) 施設課が主管している委員会は以下の通り。 ①省エネルギー委員会 年1 回開催 ②省エネルギー推進委員会 年2 回開催 ③防火・防災管理委員会 年1 回開催 ④防災対策協議会 年5 回開催 ⑤廃棄物等処理対策委員会 年1 回開催 計画通り開催され、議事録は作成され、適切に運営されている[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	建物建設、室内改修に際し、使用する職員・教員との意見交換を実施し、必要に応じて専門業者の提案を募り目的に合った施設の整備を実施している。
項目 No. 1121	省エネルギー委員会・推進委員会の下部組織として、省エネルギーWG を設置し、日常的にデータの管理・検証を実施している。
項目 No. 1121	防火・防災管理委員会の下部組織として、防災対策協議会を設置し、年間の活動計画を作成し、春日井消防局と連携し活動を実施している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	キャンパスマスタープランの策定
今後の改善・向上方策	
学内会議体にはキャンパスマスタープラン専門部会が設置され、策定に向け、組織的な活動が開始された。専門業者の協力を受けながら、中長期的なプランと短期的に対応する事項を整理し、進めて行く。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	施設課の業務改善

今後の改善・向上方策
施設課事業計画システムと購買課調達システムの統合した新システムの完成を目指す為、業者選定には両者のニーズに合ったシステムを提案されるよう綿密な打合せを実施の上、2025 年度運用開始を目指す。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
○キャンパスマスタープランの策定 ・キャンパスマスタープラン専門部会にて策定業務を進めていく。 ・2024 年度～2025 年度に計画されている主要プロジェクトを計画的に実施する。 ○施設課の業務改善 ・施設課事業計画システムと購買課調達システムの統合した新システムの 2025 年度運用開始を目指す。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	キャンパスマスタープラン策定に向けた打合せ記録	△
1120	b	新事業計画システム打合せ記録	△
1013	a	人文・理工学部新棟建築工事打合せ記録及び図面	△
1121	a	2023 年度 施設課 組織及び業務分担表	○
1121	b	省エネルギー委員会、省エネルギー推進委員会、省エネWG防火・防災管理委員会、防災対策協議会、廃棄物等処理対策委員会 各記録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 理工学部と人文学部の新棟建設に当たり両学部の担当教員と打ち合わせをして利用者のニーズに応えた建物を完成させた[1013a]。 1121 主管する省エネルギー委員会、推進委員会、防火・防災管理委員会、防災対策協議会、廃棄物等処理対策委員会は計画通り開催され、議事録も作成されている[1121b]。
長所・特色
1013 建物建設に際して使用する教職員との意見交換を専門業者を交えて行っている[1013a]。 1121 省エネルギー委員会・推進委員会と防火・防災管理委員会については、それぞれ下部組織を置いて管理・検証・活動を行っている[1121b]。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	管財部 購買課
人員構成	専任・嘱託 4 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	業務の見直し
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
調達金額が 20 万円未満の印刷物について、印刷物調達依頼書の発行を省略するという手続きの見直しを実施した。その結果、調達依頼部署並びに購買課において大幅な事務処理工数の削減に成功した。（年間 1,200 件の印刷物調達依頼のうち、800 件の印刷物について新たなルールでの調達を行っている。）	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
次期調達管理システムについては、事業計画システムなど他の管財部システムとの包括を視野に入れた検討を行う。現行システムでは大学会計処理に十分対応できていない部分もあり、問題を解消するためにも大学会計、補助金制度等の理解度向上に努める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
教職員間のコミュニケーションツールの1つとして、「ガルーン」(グループウェア)を活用することで、効果的に情報共有や意見交換などが自由に行える環境が整備されており、教職員間における協働・連携を行う上で有効的に活用されている。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
購買課の業務は、事務分掌に則り実施しており、年度始めに、学園ビジョンにて計画された調達内容と、前年度に部内で決定した目標内容を重点目標として課内周知している。また、業務分担についても毎年度始めに「課内業務分担表」を作成し、課員に周知している[1120a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	課内業務分担表により業務を細分化し担当を明確にしている[1120a]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	WEB サイトを活用した効率的な物件調達
今後の改善・向上方策	
現在の物件調達方法は、サブスク方式や電子決済などWEB 上で完結するものが主流となりつつある。システムの脆弱性の問題など課題はあるが、Amazon などのWEB サイト上の調達ツールは、取引の透明性を確保できる点では信頼が厚い。不正行為防止や物件調達の効率化、教職員の建替え購入削減などの観点から、WEB サイトによる調達ツールを整備したい。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
調達業務の効率化を図るべく、ルールの変更や時代の商流に合致した手続きの導入などについて、課内で協議を行い改善を試みる。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	購買課業務分担表	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 コミュニケーションツール「ガルーン」により教職員間の協働・連携を行う上で有効的に活用されている。 1121 事務分掌に則り、学園ビジョンと部内の目標内容を基に業務を実施し「課内業務分担表」にて課員に周知している [1120a]。
長所・特色
1120 課内業務分担表により業務の細分化、担当の明確化を図っていることは評価できる [1120a]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	管財部 情報基盤課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	適正価格の判断
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
適正価格を把握するため、ICT 専門部署と連携し予め仕様を限定した「見積条件書（仕様書）」を事前に作成し、複数業者より見積書を同時に徴収した。その結果、見積項目ごとに価格相場が把握できた。見積条件書の条件設定には専門的な知識が必要であり、その点を専門部署に依頼したことでより細かな条件設定を設定でき、異なるメーカーの製品を同一の仕様(性能)で比較できた。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・情報統括部へのスムーズな業務移管 ・223A・223B パソコン実習室の効果的な更新 ・新 28 号館新築に伴うパソコン実習室の整備

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
パソコン実習室の更新など ICT 関連施設の設備更新時には、「中部大学 ICT 運営委員会」にて、実際に施設を利用している教員と協議を行い、仕様や利用方法などについて事前に確認を行っている。				

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
今年度より業務の多くを「情報統括部」へ移管しており、ICT 関連の調達業務を中心に点検を実施。業務分担についても課内業務のみならず、情報統括部との業務分担についても協議を行い、「業務分類表」を作成した上で、課内で周知し業務を行っている[1121a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	業務分類表により業務を細分化し担当を明確にしている[1121a]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	
今後の改善・向上方策	
情報基盤課は 2024 年 3 月 31 日で廃止されている。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
情報基盤課は 2024 年 3 月 31 日で廃止されている。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1121	a	業務分類表	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 中部大学 ICT 運営委員会にて施設を利用している教員と協議を行い、仕様や利用方法などについて適切に管理されていることが評価できる。
1121 情報統括部へ移管を行う必要があり、協議のうえ、業務分担表を作成し適切に管理されている [1121a]。
長所・特色
業務分類表により業務を細分化し担当を明確にしている [1121a]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学術企画課
人員構成	専任・嘱託 (兼務含) 5 人、派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	ポストコロナにおいて、対面を主とした行事等が増えると見込まれ、運営方法の検討が必要になる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
先端研究センター運営委員会をオンラインから対面に変更して 3 回開催し、講演会および発表会の運営方法についても改善を検討し対面とオンラインの併催で実施した[1120a]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
引き続きセンター・研究所事務室間の更なる情報共有を進め、ポストコロナにおける変化に対応できるよう、さらなる業務改善（他事務室の優れた取り組みの導入など）に繋げる。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
1013 「管理運営組織図」、「事務分掌」に従い、学術推進機構に関する事務及び先端研究センター、創発学術院、中部高等学術研究所の事務室業務を学術企画課が兼務し担っており、各センター・研究所の円滑な組織運営や活動を連携してサポートしている[1013a][1013b]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 「管理運営組織図」、「事務分掌」に従い、学術推進機構に関する事務及び先端研究センター、創発学術院、中部高等学術研究所の事務室業務を学術企画課が兼務し担っている [1121a][1121b]。 各センター・研究所の組織運営や活動は、それぞれが開催する会議を通じて自己点検・見直しが行われるため、その見直しに適宜対応しながら事務室業務を行っている [1121c][1121d][1121e]。研究交流に関することについて、研究関連イベント情報ウェブサイトを作成し、研究情報を適切な研究者に提供できるよう改善した[1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	学術企画課が各事務室を繋ぐ役割を担い、事務室間での日常的な情報共有や連携ができています。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	研究活動の支援がより効果的に行われるように、業務分担の見直しを行う。
今後の改善・向上方策	
特に研究費獲得支援、研究交流推進等について、研究支援部で連携し、より効果的な支援ができるよう、業務分担を見直す。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
研究支援部の連携を強め、事務分掌の内容を検討し、業務分担の見直し等業務改善に務める。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2023 年度先端研究センター運営委員会議事録	○
1013	a	学校法人中部大学管理運営組織図（2023 年 4 月 1 日）	○
1013	b	事務分掌（2023 年度）	○
1121	a	学校法人中部大学管理運営組織図（2023 年 4 月 1 日）	○
1121	b	事務分掌（2023 年度）	○

1121	c	2023 年度先端研究センター運営委員会議事録	○
1121	d	2023 年度創発学術院運営委員会議事録	○
1121	e	2023 年度中部高等学術研究所所員会議議事録	○
1121	f	研究関連情報ウェブサイト https://www.chubu.ac.jp/news/29982/	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 学術推進機構、先端研究センター、創発学術院、中部高等学術研究所の事務室業務を学術企画課が兼務して、それぞれの組織の円滑な運営や活動をサポートしている[1013a] [1013b]。それらの内容は組織ごとに自己点検・見直しが行われる[1121c] [1121d] [1121e]。研究交流については、関連イベント情報ウェブサイトを作成して研究情報を適切な研究者に届くように改善している[1121f]。
長所・特色
1013 学術企画課が研究に関連するセンターや研究所の日常的な情報共有や連携に貢献している。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学長室
人員構成	専任・嘱託 4 人、派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	学長、および副学長間の連携をさらに強化する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学企画運営会議のみにとらわれず、必要に応じて打合せを実施した。また、秘書業務を担当する学長室員および理事長・総長室員の連携を密にし、日程調整をはじめ遺漏なく業務を遂行できた。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学長を中心とし、5 名の副学長と共に、持続発展的な大学運営を目指す。学内組織の協力体制をさらに強固なものにする。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
1013 法人幹部、大学幹部が出席する大学企画運営会議を開催し、大学運営に必要な情報を共有している。課題解決の方法等を討議し、潤滑な運営に心がけている。[1013a]				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 学長室の事務分掌は、大学企画運営会議に関すること、秘書に関すること、および学長特命業務である。大学企画運営会議の庶務を担当し、学長裁定の申し合わせに基づき定期的に開催している。学内での問題点、課題などの討議、情報共有を図り円滑な大学運営に尽力している。[1013a] [1121a] 秘書業務については、業務の多様化に伴い、秘書間の連携を一層密にし、適切に業務を遂行した。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	大学企画運営会議において、法人幹部、大学幹部による活発な討議を実施

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	情報共有の DX 化を推進する。
今後の改善・向上方策	
今まで以上にガルーンを利活用し、データの共有を図り、いつでもどこでも、どこからでも情報にアクセスできる環境を構築する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
学長、5名の副学長を中心とし、学内組織の連携を強化し、円滑な大学運営を目指す。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	中部大学企画運営会議に関する申合わせ（学長裁定）	○
1121	a	大学企画運営会議資料	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 幹部と職員で大学運営に必要な情報の共有が行われている[1013a]。 1121 大学運営が円滑かつ効果的に行われるよう事務分掌に則り、大学企画運営会議を開催し、運営に尽力している [1013a] [1121a]。
長所・特色
1121 大学企画運営会議を開催し、問題点や課題を討議し情報共有することにより円滑な大学運営に尽力している [1013a] [1121a]。
留意点
特になし。

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	大学企画部 高等教育推進課
人員構成	専任・嘱託 3 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	新任教員向け FD プログラムの受講対象やプログラム内容の具体案を検討する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1120 2024 年度から新たに導入する新任教員向け FD プログラムの受講対象やプログラム内容の具体案について、高等教育推進部・推進課打合せや、FD 活動 WG、FD・SD 委員会での議論や審議を踏まえ検討し、「新任教員向け FD プログラム要項」を制定し、リーフレットを作成した [1120a] [1120b]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	管理運営等を対象とした新たな SD 企画について、更に参加率向上を目指すことと、継続的に実施できるよう企画検討を行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1120 2022 年度に SD 企画として初めて開催した「第 1 回 FD・SD 研修会（ハラスメント）」に引き続き、2023 年度は「第 2 回 FD・SD 研修会」として、「BCP（業務継続計画）」をテーマにオンライン・オンデマンド形式により開催した [1120c]。非常勤も含めた全体の参加人数は、382 人となった。今回はテーマ性を鑑み、大学執行部、学部長、事務系管理職を必須参加としたが、その参加人数は 108 人（参加率 85%）と、2022 年度の参加率 70%を大きく上回った。 更に、2023 年度は、気軽に参加でき、知識・技能の習得だけでなく教職員・組織間の交流を図ることを目指した「SD カフェ」を新たに企画し、「第 1 回 SD カフェ」として「緊急時の応急手当を学ぼう」をテーマに開催した [1120d]。教職員 26 人が参加した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
①2024 年度からの導入に向けた新任教員向け FD プログラムの具体的検討 ②管理運営等を対象とした SD 企画の参加率向上と継続的实施

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4

段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
1013 本学における教育活動・改善に向けた教員の資質向上策としてのFD（Faculty Development）活動は、学長を委員長としたFD・SD委員会のもと、FD活動WGが中心となって種々の検討を行っている。また、教育活動顕彰審査選考委員会やFD活動評価点検委員会が組織されており、FD活動の内容について評価できる体制が整っている。 更に、「大学設置基準等の一部を改正する省令」が2017年4月1日から施行され、SD（Staff Development）が義務化されたことを受けて、本学の教員・職員のキャリア形成を図る組織的な取り組みを推進するため、2019年度にFD委員会をFD・SD委員会に再編し、その専門委員会としてSD活動WGを新たに設置している。 主管部署として、大学企画室高等教育推進部（教員3人で構成。2024年度から教員2人で構成。）、大学企画部高等教育推進課（事務員3人で構成。2024年度から事務員2人で構成。）が密に打合せを行い、協働・連携を図りながらFD活動の推進・支援を行っている [1013a]。 FD・SD委員会をはじめとする各種委員会、WGは、教員の他職員も委員として参画しており、教職協働が図られている [1013b]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1121 (1) 2008 年度より FD 活動の重点目標として『魅力ある授業づくり』への取り組みを実施しており、この目標のもと、FD 活動全般および SD 活動、「中部大学教育研究」の編集及び発行、大学 IR 推進課と作成している「教育・研究活動に関する実態資料」の発行、教育活動顕彰制度等を実施しており、FD・SD 委員会、FD 活動評価点検委員会、教育活動顕彰審査選考委員会、ジャーナル編集委員会等を通じ、それらの適切性を確認するとともに改善・向上に向けて検討を行っている [1121a]。 2023 年度重点目標の検討・進捗状況は以下の通りである。 ①2024 年度からの導入に向け、新任教員向け FD プログラムの受講対象やプログラム内容の具体案について、高等教育推進部・推進課打合せや、FD 活動 WG、FD・SD 委員会での議論や審議を踏まえ検討し、「新任教員向け FD プログラム要項」を制定し、リーフレットを作成した [1120a] [1120b]。 ②管理運営等を対象とした SD 企画の継続的实施を行うため、先述の通り、「第 1 回 FD・SD 研修会（ハラスメント）」に引き続き、2023 年度は「第 2 回 FD・SD 研修会」として、「BCP（業務継続計画）」をテーマにオンライン・オンデマンド形式により開催した [1120c]。 更に、2023 年度は、気軽に参加でき、知識・技能の習得だけでなく教職員・組織間の交流を図ることを目指した「SD カフェ」を新たに企画し、「第 1 回 SD カフェ」として「緊急時の応急手当を学ぼう」をテーマに開催した [1120d]。 1121 (2) 委員会の開催については起案、決裁を行って開催し、議事録の作成についても同様の手続を行い、委員に配付・確認している[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	FD 活動や各種委員会、WG の主管部署として、大学企画室高等教育推進部（教員 3 人で構成。2024 年度から教員 2 人で構成。）、大学企画部高等教育推進課（事務員 3 人で構成。2024 年度から事務員 2 人で構成。）が密に打合せを行い、協働・連携を図りながら FD 活動の推進・支援を行っている [1013a]。
項目 No. 1121	「第 2 回 FD・SD 研修会」に加え、気軽に参加でき、知識・技能の習得だけでなく教職員・組織間の交流を図ることを目指した「SD カフェ」を新たに企画し、「第 1 回 SD カフェ」として「緊急時の応急手当を学ぼう」をテーマに開催した [1120d]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	新任教員向け FD プログラムの進捗管理、効果的な案内方法等の検討
今後の改善・向上方策	
2024 年度から新たに導入した、新任教員向け FD プログラムについて、参加者のポイント管理や、各種 FD プログラムの新任教員に対する効果的な案内方法等を検討する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	管理運営等を対象とした SD 企画の継続的实施
今後の改善・向上方策	
「FD・SD 研修会」は昨年度で 2 回目の実施となり、新たな SD 企画として教職員に浸透しつつあるが、不参加者に対するペナルティが無い参加率の低下が懸念される。SD は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な能力及び資質を向上させる研修であるため、今後も教職員全員にとって中身があり魅力的な企画を検討する必要がある。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
①新任教員向け FD プログラムの進捗管理、効果的な案内方法等の検討	
②管理運営等を対象とした SD 企画の継続的实施	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	新任教員向け FD プログラム要項	○
1120	b	「中部大学『魅力ある授業づくり』プログラム/新任教員向け FD プログラム」リーフレット	○
1120	c	第 2 回 FD・SD 研修会実施要領	○

1120	d	第1回SDカフェ実施要領	○
1013	a	公式ホームページ「高等教育推進部概要」	○
1013	b	各委員会委員名簿	○
1121	a	各委員会議事録	△
1121	b	各委員会開催および議事録作成の起案書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 各種委員会、WG は、教職員が委員として参加しており、教職協働が適切に図られている。[1013b]。担当部署間で密に意見交換を行い、協働・連携を図りながらFD活動の推進・支援が行われていることが評価できる[1013a]。 1121 各種委員会を通じ、適応性が確認され改善・向上に向けて検討が行われている [1121a]。委員会の開催、議事録の作成は起案、決裁により適切に管理されている[1121b]。
長所・特色
1121 各種リーフレットを作成されている [1120a] [1120b]。SD 企画の継続的实施を行う取り組みが行われている [1120c]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	大学企画部 大学 IR 推進課
人員構成	専任 2 人、派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	利用者のニーズに応じた分析結果の提供
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
「学びに関する調査」、フレッシュマンテスト、科目別成績評価分布等の IR データをより容易に共有・利用できるよう、「IR データ グラフ掲載サイトのリンク集」をガールーンの掲示板に作成して、全教職員に通知し、各学部・学科等における点検評価や改善に向けた議論の材料としての活用を促進した[1120a]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	身に付いた力の可視化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
アセスメントテストとして 2021 年度入学生から導入した「GPS-Academic」の 1 年次と 3 年次の受検結果を比較し、思考力等の各測定項目の伸びを調査することで、在学生の身に付いた力の可視化を試みた。学部別のデータやグラフを学部長・研究科長会に報告し、各学部・学科への情報共有を図った[1120b][1120c]。 「学びに関する調査」では、本学の定める「10 の身につく基礎力」の各能力・資質について、身に付いた実感を調査している[1120d]。今年度から、キャリア支援課と連携し、卒業生とその就職先企業へのアンケートに「10 の身につく基礎力」の各能力・資質についての質問を新たに設けた。卒業生には各能力・資質の身に付いた実感と社会に出てからの必要性を尋ね、就職先企業には各能力・資質をどの程度重視し、本学卒業生はどの程度満たしているかを尋ね、本学の学びが社会のニーズに対応しているかの検証と教育の改善活動に繋げるデータ収集を行った。卒業後や企業という外部の視点による学修成果の可視化に取り組んでいる。これらの集計結果は内部質保証推進委員会に報告し、Web サイトに掲載することで学生にもフィードバックしている[1120e][1120f]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学修成果の把握・可視化を進め、教育活動の改善・向上を支援する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4

段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
大学 IR 推進部打合せを毎月 2 回開催し、大学 IR 推進課の職員と大学 IR 推進部の教員が協働・連携して業務を遂行している[1013a]。また、大学企画室の教員と大学企画部の職員の全員が参加する大学企画室会議を毎月 1 回開催し、重要事項の審議および活動状況の共有を行っている[1013b]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
今年度は、昨年度から本運用となった「学びに関する調査」を継続的に実施し、結果を内部質保証推進委員会に報告している。内部質保証推進委員会において、「学びに関する調査」結果から改善すべき項目をまとめ、当面の課題の一つとして「学生の授業理解度の向上」に大学として取り組むこととなった[1121a]。この取り組みの一環として、「IR データ グラフ掲載サイトのリンク集」をガールーンの掲示板に作成して、全教職員に通知し、学生の授業理解度に関する組織的な点検と改善を推進した[1120a]。 「学びに関する調査」結果のうち、「中部大学に期待すること、より良くするためのアイデア」の記述意見については、学生の意見に基づき改善された施策をまとめ、本学 Web サイトに掲載し、学内外に公表している[1121b]。学生へのフィードバックの重要性は外部評価でも指摘があったため、その充実が今後の課題である。 回答率の向上が課題であった卒業時調査は、学部長・研究科長会を通して教員への協力依頼を入念に行った結果、昨年度の 45.1%から 80.4%に向上し、学科別集計が行える回答データを収集することが出来た[1121c]。調査結果の主な項目を分かりやすくまとめた「卒業生の声」を作成して、集計結果と共に Web サイトに掲載し、学修成果の可視化の一端としている[1121d]。 新入生、在学生、卒業時の調査のほかに、今年度から、キャリア支援課と連携し、卒業生とその就職先企業へのアンケートに取り組んでいる。本学の定める「10 の身につく基礎力」の各能力・資質についての質問を新たに設けて実施している[1120e][1120f]。卒業から 3 年経過した卒業生には各能力・資質の身に付いた実感と社会に出てからの必要性を、就職先企業には各能力・資質をどの程度重視し、本学卒業生はどの程度満たしているかを尋ね、本学の学びが社会のニーズに対応しているかの検証と教育の改善活動に繋げるデータ収集を行った。両調査の結果は内部質保証推進委員会への報告を経て本学 Web サイトで公表している[1121e]。卒業後や企業という外部の視点による学修成果の可視化にも取り組んでいる。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	「学びに関する調査」の結果に基づき、大学全体として「学生の授業理解度の向上」に取り組むこととなり、本学の教育の改善を促進することができた[1121a]。
項目 No. 1121	「IR データ グラフ掲載サイトのリンク集」をガールーンの掲示板に作成して、全教職員に通知し、各学部・学科等における点検評価や改善に向けた議論の材料としての活用を促進した[1120a]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学生へのフィードバックの充実
今後の改善・向上方策	
学生の意見、意思表示が大学の施策に影響を与えたという実感を持てるよう、学生向けの改善状況の報告や情報提供を行う。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
IR 活動の取り組み状況を学内外に発信し、本学の IR 機能の認知度を高め、教育活動の改善を推進する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	IR データ グラフ掲載サイトのリンク集について（お知らせ）	○
1120	b	2023 年度 GPS-Academic 受験結果について	○
1120	c	中部大学 2023 年度 GPS-Academic 受験結果報告書（抜粋）	○
1120	d	学びに関する調査 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/manabi/	○
1120	e	2019 年度卒業生への調査（2023 年度実施）集計結果	○
1120	f	2023 年度「中部大学の教育と卒業生についてのアンケート」集計結果	○
1013	a	2023 年度大学 IR 推進部打合せ記録	○
1013	b	2023 年度大学企画室会議議事録	○
1121	a	「学生の授業理解度の向上」への取り組みについて（依頼）	○
1121	b	「学びに関する調査」に基づく主な改善項目 https://www.chubu.ac.jp/about/university-activities/ir/kaizen/	○
1121	c	2023 年度「学びに関する調査」卒業時-学科別集計	○
1121	d	「卒業生の声」-2023 年度「学びに関する調査」卒業時-	○
1121	e	卒業生調査・就職先企業への調査	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 打合せを毎月 2 回開催し、職員と教員が協働・連携して業務を遂行している。また、担当する教員と職員の全

員が参加する大学企画室会議を毎月 1 回開催し、重要事項の審議および活動状況の共有を行っている[1013a] [1013b]。 1121 「IR データ グラフ掲載サイトのリンク集」をガルーンの掲示板に作成して、全教職員に通知し、学生の授業理解度に関する組織的な点検と改善を推進されている。調査等の結果は内部質保証推進委員会への報告を経て本学 Web サイトで公表している[1120a] [1121e]。
長所・特色
1121 「学びに関する調査」の結果に基づき、大学全体として「学生の授業理解度の向上」に取り組んでいる。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	大学評価事務課
人員構成	専任・嘱託 2 人、派遣・契約事務補助員 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	自己点検・評価実施に関する説明の充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育組織、研究・事務組織を対象に説明会を実施し [1120a] [1120b]、自己点検・評価シート作成に関する手引の説明および大学の自己点検・評価の取り組みに関して理解を深めることを目的とした説明会を実施した [1120c] [1120d]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	「全学的な内部質保証システムの有効性」向上の推進
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
大学で取り組む全学的課題は、これまでピアレビュー結果に基づき自己点検・評価委員会において課題の抽出、策定を行っていたが、2023 年度より自己点検・評価委員会および外部評価の結果から抽出した全学的課題を内部質保証推進委員会へ提案し、当該委員会において議論した後、全学的課題および責任者を決定する方針へ変更した [1120e] [1120f]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・新たな「外部評価」について、大学全体の改善・向上に資する評価結果が得られるよう、適切な対応を行う。 ・内部質保証システムおよび教学マネジメントに関連する会議の運営について、学長はじめ大学執行部の意向を確認の上、改善に向けた具体案を検討する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
教員組織である大学企画室大学評価推進部と事務組織である大学企画部大学評価事務課は、月2回程度定期的に打ち合わせを行い、自己点検・評価に関する業務全般および外部評価の実施に関する業務を遂行している。2023年度の構成員は、大学評価推進部長（工学部所属）、副部長（国際関係学部所属）、大学企画部長、次長、大学評価事務課長、課員の計6名で、打ち合わせ事項に応じて、日本技術者教育認定機構（JABEE）の情報、法律学専門家としての文章表現・解釈等、所属学部や研究の専門性に基づく知見も交えた教職協働による活発な意見交換を行っている。また、年度末には1年間の振り返りおよび次年度の課題を共有している [1013a]。 なお、大学評価事務課は内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、ピアレビュー委員会の事務局として、会議運営を通じた教職協働を推進している。例えば内部質保証推進委員会は、教学マネジメント指針 [1013b]、大学基準協会の第4期認証評価の変更点 [1121b]等、文教施策にかかる各種情報を大学執行部（学長、副学長、大学事務局長等）が共有・議論する場としても活用されている。また、自己点検・評価におけるピアレビューは、所属組織および教員・職員の垣根を超えたメンバーで各部会が構成されており、この取り組みそのものが「教職協働」と言える[1013c]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
1. 新たな「外部評価」の実施について 2022 年度に外部評価の在り方を見直し 2023 年度より新たな体制で外部評価を実施した [1121a]。外部評価員が適切な評価・点検を実施できるようスケジュールに沿って事前説明や資料提供を行った [1120f]。外部評価結果から抽出した課題事項は、学長が委員長である内部質保証推進委員会へ提案し、2023 年度全学的課題として承認された [1120e]。大学協議会にて報告後、全学に周知し改善を推進している。また、外部評価員へ事後面談を実施し、外部評価結果に対する本学の対応状況の報告および次年度に向けて進め方の適切性などを確認した [1121b]。新たな体制の取り組みに対して 2023 年度は円滑に遂行できたため、2024 年度も同様の実施方法で継続を予定している。 2. 全学的課題への対応について 全学的な内部質保証システムの有効性の向上を推進するため、2023 年度より自己点検・評価委員会がピアレビューの結果から抽出した全学的課題を内部質保証推進委員会へ提案し、当該委員会において、外部評価の結果も踏まえて議論した後、全学的課題および責任者を決定する方針へ変更した [1120e] [1120f]。全学的課題の進捗状況は、自己点検・評価委員会にて報告している [1121c]。 3. 自己点検・評価実施要項の変更 2023 年秋に大学基準協会の第 4 期認証評価の評価基準・項目が公表されたことを受け、内部質保証推進委員会で検討の結果、2027 年度の実施を見据え、2024 年度からこれに準拠した自己点検・評価を実施することとなった [1121b]。この決定を受け、実施要項の変更を行った [1121c]。また、これまで実施に関する説明は事務連絡会を通して行っていたが、職員の理解をより深めることを目的として、教育組織と研究・事務組織を対象に説明会を開催した [1120a] [1120b]。2023 年度に実施した説明会の運用を振り返り次年度の開催に向けて大学評価推進部・大学評価事務課の教職員で検討していく。 4. 委員会の運営について 委員会規程において大学企画部が庶務を担当する委員会のうち、内部質保証推進委員会、自己点検・評価委員会、ピアレビュー委員会の運営を行っている。委員の構成、委員会の設定、議事録の作成は起案書にて委員長承認後、委員会委員へ通知し適切に運用している [1121d] [1121e] [1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	大学評価推進部・大学評価事務課は、定期的に打ち合わせを開催し、教員と職員が協働して業務を遂行している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	短期解決が困難な全学的課題の継続的な対応方針の検討
今後の改善・向上方策	
短期解決が困難な全学的課題は、大学評価推進部・大学評価事務課の教職員で進捗状況を共有し、継続的な対応方針を検討した後、所管する委員会へ上申する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	2027 年度第 4 期機関別認証評価受審の準備
今後の改善・向上方策	
第 4 期機関別認証評価受審を見据え本学の内部質保証システム体制の強化、自己点検・評価に関する業務の見直しおよび改善を所管する委員会において検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
2020 年度機関別認証評価結果で指摘のあった改善課題の改善状況を関係部署と連携を図り「改善報告書」を作成し、大学基準協会へ提出する。	
2027 年度機関別認証評価受審を見据え準備を始める。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1013	a	2023 活動記録	○
1013	b	第 1 回内部質保証推進委員会議事録	○
1013	c	2023 年度ピアレビュー委員会名簿	○
1120	a	自己点検・評価実施説明会開催通知（研究・事務組織）	○
1120	b	自己点検・評価実施説明会開催通知（教育組織）	○
1120	c	自己点検・評価実施説明会資料（研究・事務組織）	○
1120	d	自己点検・評価実施説明会資料（教育組織）	○
1120	e	第 5 回内部質保証推進委員会議事録	○
1120	f	中部大学外部評価実施スケジュール	○
1121	a	中部大学外部評価実施要項	○

1121	b	第7回内部質保証推進委員会議事録	○
1121	c	第3回自己点検・評価委員会議事録	○
1121	d	内部質保証推進委員会委員構成・開催通知・議事録作成起案	○
1121	e	自己点検・評価委員会委員構成・開催通知・議事録作成起案	○
1121	f	ピアレビュー委員会委員構成・開催通知・議事録作成起案	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 自己点検・評価および外部評価に関する業務を遂行している。教員と職員で教職協働による活発な意見交換が行われている。会議を適切に運営し教職協働を推進している[1013a][1013c][1121b]。 1121 新たな外部評価の実施や全学的課題への対応に際し、規程に則り、委員会を実施し適切に遂行していることは評価できる [1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e] [1120f] [1121a] [1121b] [1121c] [1121d] [1121e] [1121f]。
長所・特色
1013 教員と職員が定期的な打ち合わせをはじめとして自己点検・評価及び外部評価に関する業務を協働し遂行していることは評価できる [1013a]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学事部 学事課
人員構成	専任・嘱託 12 人、 派遣・契約事務補助員 3 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	各委員会運営および、入学式、学位記授与式等式典行事の企画及び実施における、ポストコロナに向けた対応策の検討・準備。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学式と学位記授与式において、開催方法を感染拡大状況等に応じてコロナ禍以前の通常時に徐々に戻すべく、大学執行部との早期調整と関連部署と打合せ（7 月、1 月）を行い、これまでの担当者の意見や反省点等踏まえ、柔軟に対応可能な体制を整えた上で開催した。2023 年度学位記授与式と 2024 年度入学式においては、来賓招待、管弦楽団・混声合唱団等による演奏・歌唱等、一部コロナ禍以前の開催方法に戻して開催した[1120a][1120b]。 大学協議会において、コロナ禍は陪席を Zoom 参加としていたが、業務効率・合理化および、資料のペーパーレス化の観点から、コロナ禍以降も Zoom 参加を継続している[1120c]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	薬品管理システムに関する FAQ 等を充実させ、利便性を高める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度に実行した薬品管理システムに関する FAQ により、問い合わせは減少した。電話で解決しない問い合わせについては、研究室に訪問し事象を確認後、システム提供元に報告し対応策の検討を依頼した。利用者の利便性の更なる向上を図るべく、本学で薬品管理システムのアップデートを計画し、薬品データ更新[1120d]、取扱説明書更新[1120e]、操作ガイド追加掲載[1120f]、ラベル印刷用パッチ更新を実施した。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
円滑な大学運営をサポート ・組織力の向上（部・課・各担当それぞれのグループで情報共有の度合いを高める） ・アフターコロナへの準備・対応（会議、行事、イベント等の運営） ・学園ビジョン（2021-2025）の具現化に向けたサポート

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んで

いるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
大学協議会：中部大学学則第 54 条第 2 項で、大学の運営に関する重要事項を審議すると規定されている[1013a]。委員は学長、副学長、学部長等教員幹部と、大学事務局長、法人事務局長、学生教育部長等事務職員で構成しており、学則その他重要な規程の制定又は改廃に関することや、教育・研究活動、学生支援等の基本方針に関する事項等、大学の運営に関する重要事項を審議している。なお、陪席として部長・学部事務室事務長等の事務系管理職も出席している[1013b]。 学長ヒアリング：7 月 25 日、27 日、28 日、31 日の間で 14 部局を対象に学長ヒアリングを実施した[1013c]。学園ビジョン実行計画の円滑な実施を目的とし、各部局の懸案、喫緊の課題、およびそのための必要経費を共有している[1013d]。 教職員総会：対面とウェビナー併用にて春（4 月）と秋（9 月）に全教職員、事務職員（管理職）を対象に開催した[1013e]。理事長、総長からのメッセージ、学長からの大学方針、新任教員紹介で構成され、開催案内時に SD 活動の一環として開催することを周知し、出欠席の事前登録および当日の参加確認を行うことで、専任教職員の出席率の更なる向上に努めた結果、4 月：教職員 595 名（出席率 91.7%）、9 月：教職員 540 名（出席率：83.9%）が参加した[1013f]。 運営企画研修会：年度毎にテーマを定め、担当者からの報告を受けた後、討論を行っている。2023 年度は第 1 部で学園ビジョン 2021-2025 実行計画の進捗確認として、担当副学長からの報告、第 2 部で「募集力の更なる強化に向けて」についての対応討議をおこなった[1013g]。参加者は、学園から理事長、総長、常勤理事、事務統括本部長、法人事務局長、監事等が参加し、大学から、学長、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、キャリア部長、大学事務局長等が参加した。なお、陪席として法人、大学の事務系部長等も参加した[1013h]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
(1) 毎年度初めに、学事部長から学事部の役割と目標および業務等について課員へ周知がなされ、各課で年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っている [1121a]。 毎週月曜日 9 時に管理職打ち合わせを行い、業務の進捗確認と喫緊の課題等を共有している。また、15 時から課の打合せを行い、それらの情報を課員へ周知し、担当業務毎に点検・確認している。 (2) 学事課が担当する委員会等は、大学協議会、人事審議会、学部長・研究科長会、動物実験委員会、倫理審査委員会、放射線安全委員会、組換え DNA 実験安全委員会、バイオセーフティ委員会、民族資料博物館運営委員会、蝶類研究資料館運営委員会がある。各委員会の運営については関係法令、規程等に則って適切に開催している [1121b][1121c][1121d][1121e][1121f][1121g][1121h][1121i][1121j][1121k]。毎年度、担当部局へ委員会活動報告書と委員会名簿の提出を依頼し、取りまとめた上で教職員専用 HP を活用して学内に周知している [1121l][1121m][1121n]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となる

もの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.	特になし

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	教職員総会出席率の向上
今後の改善・向上方策	
開催案内時に SD 活動の一環として開催することを周知し、会場参加と Zoom 参加のハイブリッド開催とし、出欠席の事前登録及び当日の参加確認を行うことで、専任教職員の出席率の更なる向上に努める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
円滑な大学運営をサポート	
・組織力の向上（部・課・各担当それぞれのグループで情報共有の度合いを高める）	
・デジタル化推進による業務改善合理化	
・学園ビジョン（2021-2025）の具現化に向けたサポート	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記 号		
1120	a	2023 年度学位記授与式・2024 年度入学式打合せ資料（第 1 回）	○
1120	b	2023 年度学位記授与式・2024 年度入学式打合せ資料（第 2 回）	○
1120	c	第 370 回大学協議会開催通知	○
1120	d	薬品データ更新結果	○
1120	e	薬品管理システム CRIS 取扱説明書（抜粋版）	○
1120	f	薬品管理システム CRIS 操作ガイド	○
1013	a	中部大学学則	○
1013	b	2023 年度大学協議会名簿	○
1013	c	学長ヒアリング日程（2023 年度）	○
1013	d	2024-2025 学長ヒアリング基本方針案（部長会資料）	○
1013	e	2023 年度教職員総会開催通知	○
1013	f	2023 教職員総会参加人数一覧（zoom 接続者あり）	○
1013	g	2023 年度運営企画研修会日程【確定】2023. 9. 7	○
1013	h	2023 運営企画研修会名簿 0905（懇親会卓番削除）	○
1121	a	2024 年 4 月以降の学事部について	○
1121	b	中部大学協議会規程	○

1121	c	中部大学人事審議会規程	○
1121	d	中部大学学部長・研究科長会に関する申合せ	○
1121	e	中部大学動物実験取扱規程	○
1121	f	中部大学倫理審査委員会規程	○
1121	g	中部大学放射線安全委員会規程	○
1121	h	中部大学組換えDNA実験規程	○
1121	i	中部大学バイオセーフティ委員会規程	○
1121	j	中部大学民族資料博物館運営委員会規程	○
1121	k	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程	○
1121	l	2022 年度委員会活動報告	○
1121	m	2023 年度各種委員会委員名簿	○
1121	n	委員会活動報告書・委員会名簿 HP 画面 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/general_administration_and_university_affairs/index.html	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 規程に則り、組織が設けられ、適切に人員が配置されている。大学の運営に関する重要事項の審議が教員と職員の教職協働により適切に行われている[1013a][1013b]。1121 各課で年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みが行われていることが評価できる [1121a]。各委員会の運営は関係法令、規定等に則り適切に開催されている[1121b][1121c][1121d][1121e][1121f][1121g][1121h][1121i][1121j][1121k]。
長所・特色
1013 大学の運営に関する重要事項の審議が適切になされ[1013b]、全教職員、事務職員（管理職）が対象の総会は円滑に行われている。 1121 各委員会の運営については、関係法令、規程等に則って適切に管理が行われている[1121b][1121c][1121d][1121e][1121f][1121g][1121h][1121i][1121j][1121k]。毎年度、担当部局へ委員会活動報告書と委員会名簿の提出が依頼され、取りまとめた上で教職員専用 HP を活用し、学内に周知されている[1121l][1121m][1121n]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	学事部 設置改組準備課
人員構成	専任・嘱託 3 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	設置計画の重視、完全履行
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
設置計画等の企画・立案に当たっては、関係部署・教職員と密接な連携をし、教育課程、教員組織等の基本的な考え方と、現在、求められている大学改革の基本方針を踏まえて、準備段階において教職協働の側面からも十分に検討し、設置後に教員の交代、教育課程の変更等のないように努め、社会に対する約束を履行していく。 2023 年 5 月履行状況報告書提出対象学科：理工学部、宇宙航空理工学専攻 (M) [1120a]	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学園ビジョン（教育改革）の具現化 ①生物生命系教育圏学部再編の検討 ②文系改革の継続検討 ③大学院定員充足率の改善検討 ④人文学部メディア情報社会学科の設置届出 ⑤工学研究科宇宙航空理工学専攻の設置届出（課程の変更） 業務改善への継続的な取り組み

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
-----------	------	--	------	---

評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
学園将来構想検討会議での「学園の将来構想に関する方針（2020年2月3日）」に基づき、学長の下に設置している「文系学部再編整備充実検討委員会」「生物生命系教育圏学部再編整備充実検討委員会」について、構成メンバーに教員・職員を適切に配置し、議論している [1013a] [1013b] [1013c] [1013d] [1013e]。	

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
設置改組準備課の業務は主に次の3つである。				
1. 学部・研究科の設置・改組に関すること 学園将来構想検討会議での「学園の将来構想に関する方針（2020年2月3日）」に基づき、学長の下に「文系学部再編整備充実検討委員会」「生物生命系教育圏学部再編整備充実検討委員会」を設置、具体的な改革案（教育内容の充実及び組織の改組等）を検討した [1013a] [1013b] [1013c] [1013d] [1013e]。 ①人文学部メディア情報社会学科の設置届出受理 [1121a] ②工学研究科宇宙航空理工学専攻（D）の課程変更届出受理 [1121b]				
2. 各種養成施設の指定・変更申請等に関すること 各種指定学校等について、教育課程の変更、実習施設の変更等がある場合は、指定規則に基づき変更承認申請等を行っている [1121c]。				
3. 教職課程の申請・変更届に関すること 教職課程を置いている学科の教育課程の変更、教職専任教員の変更等について文部科学省へ変更届を提出している [1121d]。 2023年度は上記に加え、免許法施行規則等の改正に伴う以下の変更届の提出を行った。 ①免許法施行規則の改正及び特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムの策定に伴う教職課程の授業科目の開設等に関する変更届（対象：特別一種免） [1121e] ②免許法施行規則の改正に伴う教職課程の授業科目の開設等に関する変更届（対象：中一種免（理科）、高一種免（理科）（情報）） [1121f]				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 1121	業務に係る監督官庁が開催する説明会や、他団体が開催している講習会等に可能な限り参加し、情報のアップデートに努めている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項	《箇条書き》
項目 No. 1121	設置計画の重視、完全履行
今後の改善・向上方策	
設置計画の完成度の向上のため学部・研究科等へのより適切な助言が行えるよう職員各自が精進するとともに、引き続き「社会との約束」という意識を啓発するよう努める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
学園ビジョン（教育改革）の具現化 ①生物生命系教育圏学部再編の継続検討 ②文系改革の継続検討 ③大学院定員充足率の改善検討 ④理工学部へ接続する大学院の設置届出 業務改善への継続的な取り組み

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2023 年度設置計画履行状況報告書 https://www.chubu.ac.jp/about/application/	○
1013	a	文系学部再編整備検討委員会内規	○
1013	b	生物生命系教育圏学部再編整備充実検討委員会内規	○
1013	c	2023 学部改革に係る親委員会・専門委員会の委員一覧	○
1013	d	2023 年度第 1 回生物生命系教育圏学部再編整備充実検討委員会議事録	○
1013	e	2023 年度第 2 回生物生命系教育圏学部再編整備充実検討委員会議事録	○
1121	a	メディア情報社会学科設置届出書類	△
1121	b	工学研究科宇宙航空理工学専攻（D）課程変更届出書類	△
1121	c	指定学校変更承認・届出書類（看護師・理学療法士・作業療法士・臨床工学技士）	△
1121	d	認定課程における学科等の教育課程の変更について（学部・大学院）	△
1121	e	特支免教職課程に関する変更届	△
1121	f	対象教科に関する変更届	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 教職協同については、学園将来構想検討会議における基本方針に基づき教員・職員を適切に配置した委員会を設置して議論している [1013a] [1013b] [1013c] [1013d] [1013e]。 1121 担当する業務について、学部・研究科の設置・改組に関することは「文系学部・生物生命系教育圏学部の各再編整備充実検討委員会」で検討し、各種養成施設の指定・変更申請等に関することと教職課程の申請・変更届に関するものは、それぞれ指定規則などの法令に則って行われている。[1121a][1121b][1121c][1121d][1121e][1121f]。
長所・特色
各担当業務ごとに監督官庁や各種団体が開催する講習会等に参加して、関連する情報の収集・アップデートに努めている。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	経営情報学部事務室
人員構成	専任・嘱託 3 人、 派遣・契約事務補助員 1 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	各会議でのペーパーレス化を構築する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教授会・研究科委員会において、事前に資料をデータ化し経営情報学部教員向け HP に資料を添付し、各自ダウンロードできるように変更した。また、資料は会議場のモニターからでも、各自持参したパソコンやタブレットからでも閲覧できるようにした。2022 年度までは iPad にデータを保存していたが、データを iPad30 数台に転送する煩雑さや対応時間が取られていたため 2023 年度より廃止をした。限られた時間内で資料を準備する必要があったが、滞りなく対応できるようになった。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	学部 Web サイトの更新等を積極的に行い、学部広報をさらに強化する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
一部の情報提供依頼については、教員から情報を収集する際の情報提供フォーマットを作成し、そのフォーマットに記入いただきフォーム作成ツールを活用して情報を提供する側も収集する側も負担が減る形に変更した。また、学部・学科紹介動画も複数作成し学部 Web サイトに掲載した[1120a]。今後は、その他情報提供・収集方法を他情報でも活用することで業務負担軽減や効率化を図っていききたい。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
教職協働体制により学部 Web サイトの更新等を積極的に行い、学部の魅力を随時発信し、学部広報の充実を図る。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
教授会や研究科委員会だけでなく、主任会議や入試選抜委員会等の会議に職員も参加[1013a] [1013b]し、学部・学科の状況や教員の取り組みや考えなどを理解することに努めている。また、学部長や学科主任、学部学科イベント担当教員等との情報の共有に努めて継続的な協働・連携を図っている。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
【1121(1)】 学校法人中部大学管理運営規則の事務分掌[1121a]に定められた業務を適正に遂行している。経営情報学部、経営情報学研究科の会議の年間計画、会議室などの管理、会議の庶務、予算（研究費）の管理などを行っている。業務は、適宜、教職協働による体制を構築し遂行している。学部 Web サイトの更新などを行い、学部のニュースを積極的な発信を行っている。[1121b] 事務室業務に対して、年度始めに、構成員の個人目標、担当業務を設定し、時折、面談を実施している。 【1121(2)】 委員会活動として、経営情報学部教授会[1121c]、経営情報学研究科委員会[1121d]、経営情報学部主任会議[1013a]を開催し、各会の議事録作成を適切に行っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	属人化していた業務をマニュアル化や業務担当シフトの変更等を行い、誰もが業務を担当できるような仕組みづくりに取り組んでいる。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	学部 Web サイトの更新等を積極的に行い、学部/学科の魅力発信をさらに強化する。
今後の改善・向上方策	
教職協働体制を構築することで情報集約の効率化を図り、Web サイトの更新等を随時行える体制を整え学部広報をさらに強化する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	事務室構成員が主体的に業務改善・事務能力の向上に取り組める体制づくりと意識改革
今後の改善・向上方策	
業務改善（簡素化、効率化、マニュアル化、削減）を図り、必要な業務（新規、継続）により一層の時間と労力を入れられる体制づくり。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・ 事務室構成員が主体的に業務改善・事務能力の向上に取り組める体制づくりと意識改革 ・ 学部 Web サイトの更新等を積極的に行い、学部広報の更なる強化

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	経営情報学部 Web サイト 1 https://www.chubu.ac.jp/news/7310/	○
1013	a	経営情報学部主任会議議事録	○
1013	b	経営情報学部入学者選抜委員会議事録	○
1121	a	事務分掌（経営情報学部事務室分）	○
1121	b	経営情報学部 Web サイト 2 https://www.chubu.ac.jp/academics/business/management-synthesis/	○
1121	c	経営情報学部教授会議事録	○
1121	d	経営情報学研究科委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 教授会、研究科委員会等の会議に職員も参加し教員との協働・連携を図っている[1013b]。 1121 事務分掌に則り、業務が適正に遂行されている。個人目標を設定し面談を実施することにより業務改善・向上の取り組みを行っている。また、委員会が適切に運営され議事録も作成されている [1121a] [1121b] [1121c] [1121d] [1013a]。
長所・特色
1013 学部 Web サイトを積極的に活用し業務の改善に取り組んでいる[1121b]。 1121 業務のマニュアル化やシフト変更を行い、業務の平準化が図られていることは評価できる。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学部事務室
人員構成	専任・嘱託 4 人、派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	特になし
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
特になし	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
事務分掌に則り、生命健康科学部（教授会、主任会）及び生命健康科学研究科（研究科委員会、主任会）、その他各種委員会（生命健康科学研究所運営委員会、学部教務委員会、学部X線安全委員会、等）円滑な管理運営を適切に行い、情報共有および連携を図る。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
法人および大学運営に関する業務については、毎年2月と3月の教授会において、各種委員の役割分担を取り決め組織として設定し人員を配置している[1013a] また、教授会・主任者会において、都度会議報告（または連絡）を行い、議事録として教授会メンバー及び主任者会メンバー、事務室内に配信し、事務室内においても日々のミーティング時に共有を図っている。[1013b]。				

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
事務分掌に則り、業務の改善・向上については、日々の業務の中で随時取り組んでいる。また、毎年3月の人事考課面接時に翌年度の事務室重点目標を事務長から課員に提示し、課員の業務目標設定の一助としている[1121a]。 委員会活動について、事務室は小さな組織であるため特に事務室としての委員会は開催していないが、学部長・研究科長主導のもと学部・研究科として開催する教授会、主任会等、研究科委員会、専攻主任会の各種委員会については、事務長が会議開催、議事録作成等を適切にサポートしている。[1121b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	事務室内において日々のミーティング時において閲覧確認と内容説明を実施。
項目 No. 1121	定例会議は、ガルーンを活用し開催案内、議事録の手続き等のスケジュールリング化を実施。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	会議運営におけるペーパーレス化の促進
今後の改善・向上方策	
各種会議運営及び手続きにおいて、これまでもペーパーレス化は進めてはいるが、「紙」の使用が依然残る（議題の配付、資料保管、等）。利便性や運営上の効率化を教員の意見を踏まえつつ検証し、ペーパーレス化を検討していくこととしたい。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
事務分掌に則り、生命健康科学部（教授会、主任会）及び生命健康科学研究科（研究科委員会、主任会）、その他各種委員会（生命健康科学研究所運営委員会、学部教務委員会、学部X線安全委員会、等）円滑な管理運営を適切に行い、情報共有および連携を図る。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記号		
1013	a	2023 年度生命健康科学部役割分担	○

1013	b	教授会、研究科委員会、主任会（学部、研究科）議事録	○
1121	a	事務分掌（生命健康科学部分）	○
1121	b	教授会、研究科委員会、主任会（学部、研究科）議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 法人および大学運営に関する業務について、組織、人員が適切に配置されている[1013a]。教授会・主任者会において、都度会議報告、連絡が行われ、議事録として教授会メンバーおよび主任者会メンバー、事務室内に配信し連携が図られている[1013b]。 1121 事務分掌に則り、業務の改善・向上において、適正に行われている[1121a]。学部長・研究科長主導のもと学部・研究科として開催する教授会、主任会等、研究科委員会、専攻主任会の各種委員会を事務長が会議開催、議事録作成等を適切に行い管理されていることが評価できる[1121b]。
長所・特色
1013 事務室内の日々のミーティング時において閲覧確認と内容説明を実施されている。1121 定例会議は、ガールーンを活用し開催案内、議事録の手続き等のスケジュールリング化されている。
留意点
特になし。

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成教育院事務室
人員構成	専任・兼務・嘱託 5 人 派遣・契約事務補助員 2 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	人間力創成教育院幹部教員交代や本務教員増員による事務体制の再構築
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
人間力創成教育院の管理運営を適正に進めるための、院長、院長補佐等との打ち合わせを行うことで、情報共有をした[1120a]。また、他部署から配置換えで増員した教員への対応は、円滑に行えたが、教職課程センターへ配置換えになった教員の事務的対応は引き続き該当部署と情報共有しながら柔軟に対応する。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
人間力創成教育院幹部教員交代や本務教員増員を踏まえた事務体制の再構築を図り、組織関係の委員会活動（会議）について開催、議事録の作成を適切に行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	B
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明	SDGs 学際専攻（学長認定資格）について、SDGs 学際専攻全学教育プログラム WG では、学部代表担当教員と教務支援課、本事務室のメンバーで、議論を重ね、全学部対象に登録から修了までに関わる業務を、適切に行えるように			

教員と職員の連携を図っている[1013a][1013b][1013c]。また、学生への案内、指導は、全学部教員や学部事務室の協力を得て、学生への履修申請や報告書提出の案内（HP、Tora-net、メール）、成績や修了証発行のための資料を教務支援課と連携して行っている[1013d][1013e][1013f][1013g][1013h][1013i][1013j]。申請内容や履修状況確認（人間力）、履修申告準備（教務支援課）、報告書確認（学部教員）が、より円滑に行われるように更なる検討をしている。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
人間力創成教育院の事務分掌に則り、規程に定められている「統括調整企画会議」「全学共通教育委員会」「教員会議」「SDGs教育環委員会」を院長の指示、確認のもと、開催の有無、開催形式、案内の送付、資料作成、議事録作成等適切に行っている[1121a][1121b][1121c][1121d][1121e][1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	全学部対象「SDGs 学際専攻」情報を Tora-net にて案内、関連 HP も常に更新している[1013e][1013f]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	SDGs 学際専攻（学長認定資格）報告書の提出について学生や教員への周知の方法の改善
今後の改善・向上方策	
報告書について、学生へ提出連絡、指導教授や学科主任への取り纏め方法を依頼しているが、すべて単位を取得しているにもかかわらず、報告書の提出がされないために、再度、教員から報告書の提出を促したりすることがあり、報告書の提出時期や周知の方法を検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
人間力創成教育院事務室の業務の明確化、業務分担の再構築。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	人間力創成教育院 打ち合わせメモ	○
1013	a	2023 年度第 1-6 回 SDG s 学際専攻全学教育プログラム WG 議事録	○
1013	b	SDGs 学際専攻 修了認定手順	○
1013	c	SDGs 学際専攻の申請から認可までの流れについて	○
1013	d	SDGs の取り組み Web ページ https://www.chubu.ac.jp/academics/college-education/all-sdgs/	○
1013	e	SDGs 学際専攻 (学長認定資格) Web ページ https://www.chubu.ac.jp/academics/college-education/sdgs-program/	○
1013	f	各学部教員、事務長宛「SDGs 学際専攻他学部科目の履修について」2023 春 (Tora-Net) SDGs 申請者向け通知文	○
1013	g	SDGs 学際専攻修了予定者宛 SDGs 学際専攻における報告書の提出について ・【様式】SDGs 学際専攻報告書	○
1013	h	部長学科主任宛 SDGs 学際専攻修了チェック表の送付について (記入例) 修了認定チェック表	○
1013	i	履修成績状況表 (SDGs 学際専攻を申請した学生成績)	△
1013	j	教務支援課長宛依頼文 SDG s 修了証の学生データについて (お願い)	○
1121	a	2023 年度事務分掌	○
1121	b	人間力創成教育院規程	○
1121	c	2023 年度人間力創成教育院 統括調整企画会議議事録 (結合版)	○
1121	d	2023 年度人間力創成教育院全学共通教育委員会議事録 (結合版)	○
1121	e	2023 年度人間力創成教育院教員会議 議事録 (結合版)	○
1121	f	2023 年度人間力創成教育院 SDGs 教育環委員会議事録 (結合版)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 1121 多種多様な領域の教育プログラムを管理する事務室として、院長、院長補佐による打ち合わせ、各学部長にも入ってもらった統括調整企画会議、各教育プログラム長による全学共通教育委員会、学部の教授会に相当する教員会議、SDGs 学際専攻を運営する SDGs 教育環委員会によって、教員と職員が相互に情報共有をしながら円滑な管理運営を行っている[1013a][1013b][1013c][1120a][1121a][1121b][1121c][1121d][1121e][1121f]。
長所・特色
1013 本学の特徴である全学部対象の「SDGs 学際専攻」について、関連する情報を Tora-net やサイトを活用して学生に発信して、履修者の拡大に貢献している[1013d][1013e][1013f]。
留意点
特になし

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	創造的リベラルアーツセンター事務局
人員構成	専任・兼務・嘱託 4 人 契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	リベラルアーツ科目授業実施に向けての事務的業務内容の把握
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2024 年度入学生初開講となるリベラルアーツ課題演習 A.B.C について、創造的リベラルアーツセンター会議にて審議された授業計画を基に、授業編成を行った[1120a][1120b]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
来年度、パイロット授業からリベラルアーツ科目授業実施に向けての事務的なサポートをする。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	B
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
創造的リベラルアーツセンターシンポジウムやFD講演会の開催について、HPの作成、申請準備、開催案内等、録画配信、教職員で連携を図り、センターの活動について学内外へ周知を行った [1013a][1013b][1013c][1013d][1013e]。				

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
創造的リベラルアーツセンターの事務分掌に則り、規程に定められている「運営会議」を委員長の指示、確認のもと、開催の有無、案内送付、議事録作成等を適切に遂行した。会議はオンライン、書面での会議を 10 回開催した[1121a][1121b][1121c][1121d][1121e]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1013	シンポジウムやFD講演会録画配信の迅速な案内[1013d][1013e]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1013	センターホームページの内容等の情報整理
今後の改善・向上方策	
センター長交代やリベラルアーツ科目授業が開始されることにより、ホームページ内の情報の整理や更新を図り、見易いものにする。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標	
創造的リベラルアーツセンター学内外における広報。	
今年度リベラルアーツ科目授業実施されるうえでの事務的補助。	

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2023-04 創造的リベラルアーツセンター運営会議議事録	○
1120	b	2024 年度 授業時間割編成依頼表リベラルアーツ科目	○
1013	a	創造的リベラルアーツセンターWeb ページ https://www.chubu.ac.jp/news/20073/	○
1013	b	創造的リベラルアーツセンター第3回シンポジウムのご案内	○

1013	c	2023 年度創造的リベラルアーツセンターFD 研究会（ご案内）	○
1013	d	創造的リベラルアーツセンターシンポジウム録画視聴について	○
1013	e	2023 年度創造的リベラルアーツセンターFD 研究会録画視聴について	○
1121	a	2023 年度事務分掌 Web ページ https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/general_administration_and_university_affairs/index.html	○
1121	b	創造的リベラルアーツセンター規程	○
1121	c	2023 年度創造的リベラルアーツセンター会議日程表（開催実績）	○
1121	d	2023 年度創造的リベラルアーツセンター運営会議開催通知	○
1121	e	2023 年度創造的リベラルアーツセンター運営会議議事録	○

出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 シンポジウムや講演会の開催について教職員で連携して取り組んでいる[1013a][1013b]。 1121 事務分掌と規程に則り、運営会議が適切に開催されている。また、議事録作成に関する手続きも適切に行なわれている[1121a][1121b][1121c][1121d][1121e]。
長所・特色
1013 シンポジウムや FD 講演会の録画配信を開催後 3 日以内に迅速に配信しているのは評価できる[1013d][1013e]。
留意点
特になし。

2024 年度 (対象年度 2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務部 入試広報課
人員構成	専任・嘱託 8 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	訴求力の高い広報ツールによる接触者への継続的アプローチとプロパー数の増加
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
講師派遣、進学説明会、オープンキャンパス等での「直接接触者」には高校生の利用率が高いとされる LINE を活用し、年間を通して学生募集に関わる各種イベント、入試情報の発信を定期的に行うとともに DM による情報発信を行った[1120a]。 「非接触者」には業者保有のリストを活用し、DM による大学および入試情報の発信を行った[1120b]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	高校への定期的なアプローチ
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
高校訪問や資料郵送にて大学および入試に関する情報提供を適宜行った[1120c]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・コロナを機に高校現場、高校生たちに急速に拡大した ICT（情報通信技術）を活用し、SNS（主に LINE）等による情報発信と本学ホームページ内の受験生サイト（Web オープンキャンパス）の充実 ・旧来の紙媒体での広告出稿、DM を活用し、直接訴求力の向上 ・高校生の興味・関心を惹起する学生募集イベントの実施

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己評価	A
-----------	------	--	------	---

評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。
現状説明	
学生募集活動、入試実施時期の繁忙期を除いた月に入学センター会議を開催した。委員は大学教員と事務職員で組織し、学生確保のためのアドミッション戦略、広報活動並びにセンターの運営に関する重要諸事項について審議し、方針の提案と承認を行った[1013a][1013b]。	

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
(1)については、年度始めに学生募集のベースとなる「学生募集活動計画」を作成、年度末に募集活動、入試結果の振り返りを纏めた「学生募集活動結果」を作成し、学内会議及び部内で情報共有を行った[1121a][1121b]。 また、日々の部内朝礼にて催事等の対応結果の報告や定期的な課内ミーティングにて業務の進捗確認及び意見交換を行い意識の向上を図るとともに、進学情報誌等の掲載内容を、時期、対象等を考慮した訴求力の高いものに全面リニューアルしつつある。 (2)については、入学センター会議を7回開催。議題整理・開催、議事録作成を適切に行った[1121c][1121d]。年度始めに「学生募集活動計画」を示すほか、催事等の事前確認や実施報告、重要案件についても審議及び承認を行っている[1121a][1121c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	定期的な課内ミーティングによる業務の進捗確認、イベント実施後の振り返り及び改善
項目 No. 1121	進学情報誌等の掲載内容を、時期、対象等を考慮し訴求力の高いものにしている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	プロパー数と歩留率の向上
今後の改善・向上方策	
訴求力の高い広報イベントの実施とWEB、紙媒体を併用したアプローチで大学の魅力の訴求を継続的に行う。講師派遣、進学説明会、オープンキャンパス等での「直接接触者」と大学パンフレットの資料請求のみによる「非接触者」を最終的な志願に繋ぐため、本学の魅力や入試制度をわかりやすく訴求する広報ツール、実施イベント内容を引き続き検討する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	高校への効果的なアプローチと情報提供のあり方
今後の改善・向上方策	
高校訪問や資料郵送による効果的な情報提供のあり方と方法を引き続き検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・ 高校生の興味・関心を惹起する学生募集イベントの実施 ・ 業者リストを活用した新規層への認知拡大及び本学ハウスリストを用いた接触者への継続的アプローチ（DM）による直接訴求 ・ 本学ホームページ内の受験生サイト（Web オープンキャンパス）のコンテンツと SNS（主に LINE）等による情報発信の充実 ・ 受験情報誌等への掲出による大学のイメージ向上と認知拡大

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	入試出願促進 DM	△
1120	b	入試出願促進 DM、大学の魅力訴求のタブロイド紙	△
1120	c	2023 年度入試結果&2024 年度入試日程、中部大学進学説明会案内状、大学案内 2024	△
1013	a	2023 年度入学センター会議委員	○
1013	b	2023 年度委員会活動報告	○
1121	a	2023 年度学生募集活動計画	○
1121	b	2023 年度学生募集活動結果報告	○
1121	c	2023 年度委員会活動報告	○
1121	d	2023 年度入学センター会議議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 大学教員と事務職員で組織された入学センター会議が行われている。重要諸事項が審議され、方針の提案と承認が行われ、適切に機能している [1013a][1013b]。 1121 「学生募集活動計画」と「学生募集活動結果」が作成され、学内会議及び部内で適切に情報共有が行われている [1121a][1121b]。 また、部内朝礼にて催事等の対応結果の報告、課内ミーティングにて、進捗確認及び意見交換が行われ意識の向上が図られていることが評価できる。入学センター会議が 7 回開催され、議題整理・開催、議事録作成が適切に行われている [1121c][1121d]。
長所・特色
1121 業務の進捗確認が定期的に行われ、イベント実施後の振り返り及び改善が行われている。進学情報誌等の掲載内容を、時期、対象等を考慮し訴求力の高いものにしている。
留意点
特になし。

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務局 入試事務課
人員構成	専任・嘱託 5 人、 派遣・契約事務補助員 0 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	入試運営業務・選抜業務・入学手続業務の更なる効率化と確実な実施
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
新規業務を認識した時点で、入試別共有フォルダに項目を立てて、確実に入試を実施した。点在していた資料(データ)の入試別共有フォルダへの集約を進め、更に確実に実施できる仕組みを整備した。実施後の改善項目の記録と前年度の振り返りをセットにし、業務の改善に努めた[1120a]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・入試業務の確実な実施 ・推薦入試における適性検査導入対応

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	B
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
一部試験の願書受付業務と入学手続書類受付業務を外部委託することで、5人体制で一連の業務を進めている。入試当日は、入学センター職員はもとより、年間延べ2,000人(実人数600人)の教職員が入試業務に携わっている[1013a]。業務マニュアルの事前配付や当日の業務説明・共通テストや地区試験監督者の事前説明会を実施し、入試				

当日の業務が円滑に進むように努めている。 人員配置の点において、入試事務課では年間約 30 日程度の休日出勤があり、入試実施後も選抜や合否発表の準備が続くため、10 月以降の繁忙期は振替休暇の取得が困難な状況が続いている。現状、課員全員の出勤を前提とした組織運営となっており、不測の事態が生じた場合の業務継続性の面で不安を抱えている。繁忙期の業務の前倒しや個々が対応可能な業務範囲の拡大を進め、入試実施後に交代で振替休暇を取得できる程度の体制を目指すことで、結果として不測の事態に備えた業務継続性の高い組織への転換を図る。				
---	--	--	--	--

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
(1) 入試事務課の主な担当業務は、入学試験の実施・選抜・入学手続対応である[1121a]。 入試の不備は、受験生の進路に多大な影響を及ぼすため、不備なく円滑に入試を終えることができたかという点が自己点検・評価の主軸となる。 年度重点目標では「入試業務の確実な実施」を最重要事項とし、その具体的な方法を掲げて、課の共通認識とするとともに、入試制度の変更に伴う対応や昨年度からの改善点をその年度の目標として設定している。これらの目標は、グループウェア上(ガルーンのスペース)に掲載し、常に目標を意識して業務を進めるよう努めている[1121b]。 2023 年度に実施した入試では、適性検査(推薦入試)・選抜奨学生制度(前期入試 A 方式)・セット出願(前期入試)・検定料割引制度(前期入試ほか)の導入に伴い、当日の試験運営だけでなく、出願方法や選抜方法など入試業務の最初から最後まで、その運用手順に大きな変更が生じた。運用手順の変更は、予期せぬ不具合を生じさせる要因となるが、入念な準備のもとに業務を進めた結果、目立った混乱やトラブルはなく、無事に入試を終えることができた。 その他、入試事務課では入学センター全体の業務として進学説明会への参加や高校訪問など、募集に関わる業務も担当している。出張で課員のスケジュールが合わない状況でも情報を共有できるように、グループウェア(ガルーン)を積極的に活用している[1121c]。				
(2)「入試・選抜委員会」を年に 11 回開催している。年度始めにその年度に実施する入学試験日程、入学試験要項について諮った上で、各入試終了後に開催する「入試・選抜委員会」にて公正な入学者選抜を実施し、議事録を作成している[1121d][1121e][1121f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1121	グループウェア(ガルーン)の活用による情報共有

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	入試実施業務・選抜業務・入学手続業務の更なる効率化と確実な実施

今後の改善・向上方策
公正公平かつ継続性を持った入試運営のためには、業務の標準化が必要となる。共有フォルダの構成を工夫することで、業務の失念や業務が継続できなくなるリスクを抑えるとともに、昨年度の反省点を次に活かす仕組みとしている[1121g]。この仕組みを活用して入試業務の改善を進める。

課題事項 《箇条書き》
項目 No. 1013 業務の棚卸しによる業務負荷の分散と軽減
今後の改善・向上方策
業務一覧を作成して年間の業務を「見える化」し、業務の前倒し・類似業務の統合・不要な業務のスクラップ・業務の簡素化の可能性を検討する。特に繁忙期の業務を見直すことで、業務継続性の向上を図る。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・入試業務の確実な実施 ・夢探究入試および推薦入試の制度変更対応 ・新課程入試対応

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	入試制度変更対応	●
1013	a	2024 年度入試担当教職員数一覧	●
1121	a	2023 年度事務分掌(抜粋)	○
1121	b	入試事務課部門目標	●
1121	c	ガルーンの活用による情報共有	●
1121	d	2024 年度入試日程・入試選抜委員会他会議日程	●
1121	e	2024 年度入試要項	△
1121	f	入試・選抜委員会議事録 2023 年 4 月 19 日	●
1121	g	共有フォルダ構成	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 入試当日は、年間延べ2,000人(実人数600人)の教職員が入試業務に携わっている。業務マニュアルの事前配付や当日の業務説明・共通テストや地区試験監督者の事前説明会を実施し、入試当日の業務が円滑に進むように努めている[1013a]。
1121 年度重点目標では「入試業務の確実な実施」を最重要事項とし、その具体的な方法を掲げ、課の共通認識と

し、入試制度の変更に伴う対応や昨年度からの改善点をその年度の目標として設定している「1121b」。「入試・選抜委員会」を年に11回開催し公正な入学者選抜を実施し、議事録も作成している[1121d][1121e][1121f]。
長所・特色
1121 ガルーンの活用により課員による各種情報の共有を進めている。
留意点
特になし

2024 年度（対象年度 2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	アドミッション戦略課
人員構成	専任 2 人

基準 10	大学運営・財務
基準 11	大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	偏差値戦略の成果、学科定員未充足の要因等の考察
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
(学)河合塾と連携し、2023 年度入試の結果と全統模試との照合により、偏差値戦略の成果、学科定員未充足の要因等を考察。大学・学部・学科が有する強み・弱み等の認識を深めるため、文系学部・理系学部で 2 日間に分け、大学企画部と入学センターの共催により FD・SD 研修会を実施した。後日、全教職員対象に本研修会の様子をオンデマンドで動画配信した[1120c]。	

☒ 課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	2024 年度推薦入試に導入予定の「適性検査」実施に係る課題解決への取り組み
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
「適性検査」導入する背景・経緯（学力の三要素の適切な測定、入学前教育の積極的取り組みへの涵養等）を鑑み、実施方法や入学前支援等に関する各種課題の洗い出し、解決方策を検討したうえで実行に移した[1120d]。	

II. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・「志願者数・実志願者数の増大」を達成する企画・戦略の策定・実施
・「入学定員の確保、入学者の質担保」を実現する計画・方策の策定・実施

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	1013	法人および大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)大学運営が円滑かつ効果的に行われるように、教員と職員の協働・連携を図っているか。			
現状説明				
タスクフォース会議で挙げられた課題について、入学センターの教員と事務職員が協働で企画案を作成し、次回のタスクフォース会議で議論し、意思決定を行っている[1120e]。				

自己点検・ 評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己 評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っているか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
(1)中部大学入学センター規程 [1120a] や事務分掌 [1120b] で定めている「アドミッション戦略」「学生募集」等の目的を踏まえ、入学センター会議、入試・選抜委員会、アドミッション戦略タスクフォースにおいて、学生確保の視点で入試制度・広報企画を検討し、2025 年度入試では、新たに年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜 [1120f]）のリニューアルを行う。 (2)アドミッション戦略課が中心となってアドミッション戦略タスクフォースを運営し、入学センターの事務系管理職も事務局の一員となり、適切に会議の運営や議事録等の作成を行っている[1120e]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 1013	教員・事務職員が協働して策定・実施した新企画により、志願者数の増加を達成できたこと。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項	《箇条書き》
項目 No. 1121	総合型選抜、学校推薦型選抜での募集力強化
今後の改善・向上方策	
外部検定（英検、簿記検定等）を利用した入試制度やそれらを組み込んだ入試制度へのリニューアルを検討・模索し、2026 年度以降の入試に反映する。同時に指定校推薦の基準・枠についても見直すことができないか、あわせて検討する。	

課題事項	《箇条書き》
項目 No. 1013	意思決定スピードの迅速化
今後の改善・向上方策	
他大学がスピード感を持って、毎年のように入試制度改革や新たな広報企画を検討・実施しているが、現状のタスクフォース会議開催頻度では企画案が決定するまでに時間がかかり、時代に合わせ、臨機応変に対応するのが難しくなっている。また、タスクフォースメンバーが多忙であり、一同に顔を合わせる事が困難であるため、ウェブを利用した会議や、メールによるタイムリーな審議など、議論の質を落とさずにスピード感を高める方策を模索していく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・夢探究入試の志願者数増加と入学者数確保（旧ポートフォリオ入試との比較）
・公募制推薦入試の志願者数増加と入学者数確保（旧一般推薦入試との比較）

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学入学センター規程	●
1120	b	2023 事務分掌	●
1120	c	【オンデマンド配信のご案内】第 60・61 回 FD・SD 講演会「2024 年度学生募集に向けて」	●
1120	d	2024 一般推薦入試入学試験要項	○
1120	e	2023 年度アドミッション戦略 TF 議事録	●
1120	f	中部大学入試案内 2025 SELECT ENTRANCE EXAM	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1013 タスクフォース会議を入学センターの教員と事務職員が協働で企画案の作成、議論、意思決定が行われている[1020e]。 1121 規程および事務分掌に則り、適切に委員会や会議を行い運営されている。河合塾との連携や全統模試との照合、FD・SD 研修会、志願者数増大・入学定員の確保への策定・実施に取り組んでいる[1120a][1120b][1120e][1120f]。
長所・特色
1013 志願者数増大・入学定員の確保への策定・実施に取り組んでいる。新企画を提案し実施したことにより志願者数の増加を教員・事務職員の協働で達成できたことは評価できる[1120f]。
留意点
特になし。